

# 相国寺御用達

## 京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りお作りいたしております。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ…。



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル

電話 ☎ 43212211 ☎

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 ☎ 43213101 ☎

# 圓明

平成二十六年 正月号(第一〇一号)

大本山相国寺  
相国会本部



平成二十六年 甲午



◆表紙写真

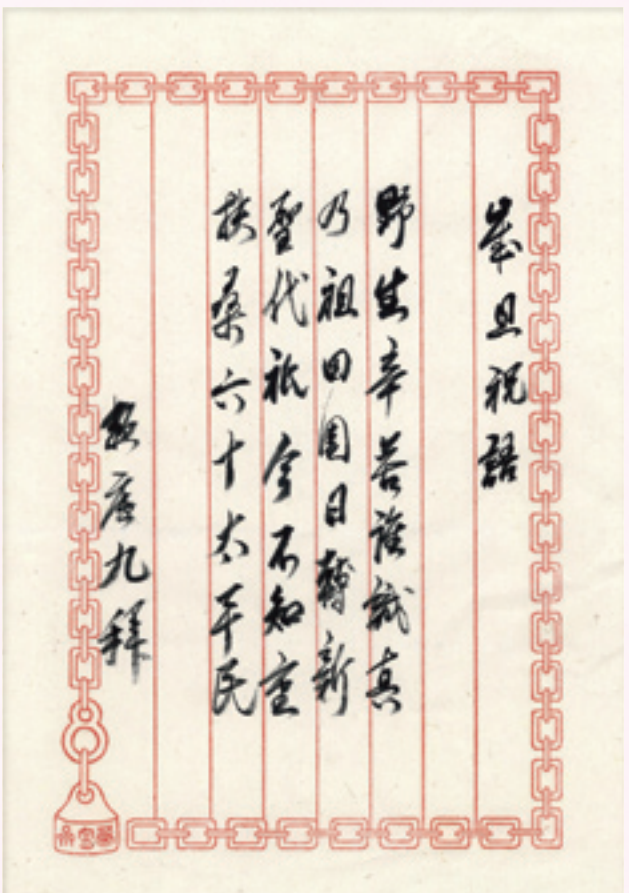
相国寺『方丈』文化四年（二八〇七）再建

京都府指定有形文化財

平成二十五年十月、三年の工期を経て五十年ぶりに修復落慶がなされた「方丈」は東西二十五メートル、南北十五メートル、六間一六八畳の「大方丈」である。元来「方丈」とは、一丈四方の住職の居室を指した。表紙の表方丈の庭は白砂敷きで、裏方丈の深山幽谷の庭と対照的である。上記写真は「方丈」の扁額で、中国南宋の書家張即之筆と伝えられ、その額字原本は東福寺の所蔵（国宝）である。

## 歳旦祝語

管長 大籠窟 有馬頼底



歳旦祝語

野生辛苦誰か真を識る  
乃祖の田園、日轉た新なり  
聖代祇今、重きことを知らず  
扶桑六十、太平の民

頼底九拜

野生の辛苦、誰か真を識る  
乃祖の田園、日轉た新なり  
聖代祇今、重きことを知らず  
扶桑六十、太平の民

頼底九拜

修行時代の辛苦、誰か真を知る

乃祖の田園は、日に日に新らしくなる

この世の中の現在は、重要なことを知らない  
日本六十余州の国民は太平を願っている

乃祖…開山国師

平成二十五年十月九日

# 相国寺大方丈修復落慶法要



管長を導師に修復落慶法要が厳修された (写真撮影◎柴田明蘭氏)



周囲には計30幅の「動植綵絵」が掛かる (写真撮影◎柴田明蘭氏)

③



修復なった方丈

②

# 方丈屋根工事の変遷

写真撮影◎株式会社 北村誠工務店



⑤ 軒付けおよび野垂木取り付け中



① 工事開始時現況調査



⑥ 野地板(杉材)取り付け中



② 瓦と下地を撤去し小屋組みが見えた状態



⑦ サワラ板で土居葺き中



③ 形状復元調整中



⑧ 瓦葺きをして屋根部完成

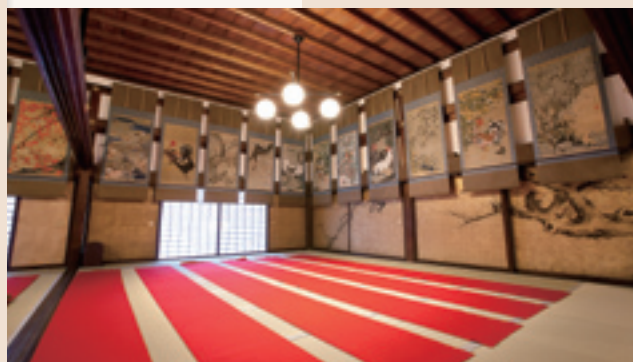


④ 母屋取り付け中

5



室中の間



梅の間



竹の間

4

百二十五年ぶりに  
伊藤若冲筆『釈迦三尊像』『動植綵絵』が  
掛けられた方丈室内

写真撮影◎柴田明蘭氏

# 大 應 寺

9月26日



記念品を受ける久山弘祐住職



総代波多野外茂治氏謝辞

# 長 遠 寺

9月26日



茶道扶桑織部家元による献茶



記念品を受ける藤井宗常住職



総代八木義夫氏謝辞

# 是心寺

9月27日



記念品を受ける和田賢明住職



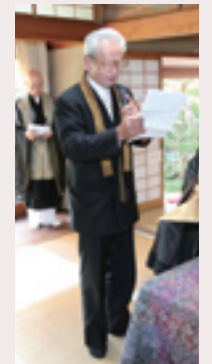
総代大角浩太郎氏謝辞

# 竹林寺

9月26日



記念品を受ける牛江宗道住職



総代宮野巳代次氏謝辞

# 無礙光院

9月27日



記念品を受ける阪口慈航住職



総代山本克和氏謝辞

# 長栄寺

9月27日



記念品を受ける鈴木景雲住職



総代橋本宜嗣氏謝辞



二〇一四年 元旦

目次

カラクラビア◎相国寺大方丈修復落慶法要

◎御親教 長遠寺・大應寺・竹林寺・是心寺・長栄寺・無礙光院  
年頭御挨拶……………管長大龍窟有馬頼底 6

年頭御挨拶……………宗務総長 山木康稔 14

年頭御挨拶……………相国会会長 片岡匡三 16

相国寺方丈保存修理工事について……………一般財団法人建築研究協会 辻 良平 20

平成二十五年 御親教日単…………… 24

御親教寺院紹介(第二教区)  
御親教感想文  
長遠寺総代 八木義夫 大應寺総代 波多野外茂治 竹林寺総代 宮野巳代次 47  
是心寺総代 大角浩太郎 長栄寺総代 橋本宜嗣 無礙光院総代 山本克和 36  
桂徳院総代 西川 功・川端武雄 智蔵院総代 本田元一 32

承天閣美術館開館三十周年 承天閣美術館のあゆみ……………演劇塾 長田学舎 粟津もと 60

心に生きる 笑顔とほゝえみ…………… 72

本山だより…………… 80

坐禅会のご案内…………… 92

教区だより…………… 95

教化活動委員会活動報告…………… 101

相国寺 春の特別拝観…………… 101

宝物拝見「風雪三顧図」…………… 116

承天閣だより「開館三十周年記念 円山応挙展開会式」…………… 117

カラクラビア◎御親教 桂徳院・智蔵院…………… 118

◎第四教区園松寺 第二十四世 本田真人新任職晋山…………… 120

◎第六教区感應寺 第三十八世 芝原祥三新任職晋山…………… 123

心のすがた…………… 124

管 承天閣美術館館長 有 馬 頼 底	宗 務 総 長 普 廣 院 住 職 山 木 康 稔	庶 務 部 長 光 源 院 住 職 荒 木 元 悦	同 部 員 豊 光 寺 副 住 職 佐 分 昭 文	財 務 部 長 豊 光 寺 住 職 佐 分 宗 順	同 部 員 慈 照 院 副 住 職 久 山 哲 永	同 部 員 是 心 寺 住 職 和 田 賢 明	同 部 員 大 光 明 寺 住 職 矢 野 謙 堂	教 学 部 長 大 光 明 寺 住 職 矢 野 謙 堂	同 部 員 眞 如 寺 住 職 江 上 正 道	同 部 員 光 源 院 副 住 職 荒 木 泰 量	相国寺史編纂室長 長得院住職 緒方香州	承天閣事務局長 長栄寺住職 鈴木景雲	同 参 事 大 應 寺 住 職 久 山 弘 祐	同 参 事 林 光 院 住 職 澤 宗 泰	鹿苑寺執事長 林光院住職 澤 宗 泰	同 執 事 慈 雲 院 住 職 草 場 周 啓
慈照寺執事長 養源院住職 平塚景堂	同 執 事 桂 徳 院 住 職 小 出 量 堂	第一教区 長得院住職 緒方香州	第二教区 竹林寺住職 牛江宗道	第三教区 福圓寺住職 大谷昌弘	第四教区 東源寺住職 角野元保	第五教区 善應寺住職 五十嵐祖傳	第六教区 保壽寺住職 藤岡牧雄	第六教区 光明寺住職 松本憲融	宗務支所正副長	第一教区 正養源院住職 平塚景堂	第二教区 副林光院住職 澤 宗 泰	第三教区 正竹林寺住職 牛江宗道	第四教区 正善應寺住職 五十嵐祖傳	第五教区 副真乘寺住職 木下雅教	第六教区 正保壽寺住職 藤岡牧雄	第六教区 正光明寺住職 松本憲融
宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長	宗 務 支 所 正 副 長



## 謹賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年の御祝詞目出度く申し上げます。

昨年には、末寺巡教もほぼ終り、第一教区と沖縄県・大阪市の各寺院を残すだけとなり、私も元気なうちになんとか責任を果たせる見通しとなりました。ことは、皆様のご協力とご支援のおかげだと感謝の気持ちで一杯であります。

海外への巡教も、中国へ二度、そして十一月のブータン渡航と続きましたが、特にブータンは三年前に国王を鹿苑寺へお迎えした折に、「二十年前に御先代国王にお目に懸かかりました。」と申し上げたところ、「是非私の時にお出下さい。」とのお言葉をうけ、わざわざ立派な招待状をいただきました。京都仏教会で

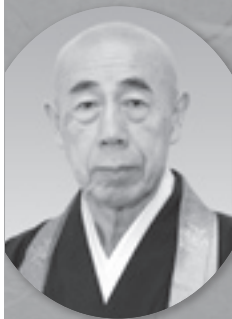
参加者を募集したところ、六十名の方々がご参加され、大変な大団体となつてしまったのですが、国王自ら出迎えて下さり、王宮へ上がらせていただいで全員に謁見下さり、そのにこやかな対応に一同は心なごむ思いでした。

さらに首相との会見も実現し、私は広島からは被爆青桐あおぎりの種を、福島の高校と京都の堀川高校の生徒からは手紙を預かっておりましたので、合わせて手渡したのです。楽しい一時でありましたので、一同は大満足で帰国しました。

さて、平成二十八年に行う宗祖臨濟禪師の一千一百五十年の遠諱おんきが近づき、様々な行事が計画されていますが、その記念事業の一つとして大々的な訪中団を組んで臨濟寺などの中国ゆかりの寺院へ参詣する予定であり、その際は相国会の皆様も大いに参加していただきたいと思えます。

檀信徒の皆様方の弥栄いやさかを祈念して御挨拶いたします。

## 年頭御挨拶



宗務総長 山木康稔

新年明けましておめでとうございます。本派の関係各位には御清祥にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本山に於きましては、管長猥下をはじめ内局員一同昨年の異常気象、猛暑にもめげず、健康第一に精進を重ね、宗務に専念致し、無事新年を迎えることができました。これもひとえに一派の越格なる尊宿をはじめ、総代様、相国会会員の皆様他、多数の方々の御支援と御協力による所大であったと、衷心より感謝の意を表します。

尚、『円明』第一〇〇号(昨年夏号)の編集に際しましては、貴重な重みのあるご寄稿を沢山頂戴いたしまして、一〇〇号記念として相応しい機関誌の完成となり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

毎年続けて来られ、第十一回目を迎えた管長猥下御親教は、昨年の九月二十六日、二十七日、二十九日の三日間、偶然にもすべて気候が好条件の下で行われました。初日は長遠寺、大應寺、竹林寺、二日目は是心寺、長栄寺、無礙光院、三日目は桂徳院、智藏院で開教されました。管長猥下が車で到着され、各寺院共檀信徒の方々が、山門の内外に整然と並んで出迎えられ、管長の穏やかな微笑に接し、待ち受けた皆さんの嬉しさを以って受け止められている様子が、随行員にも感じとれました。本堂に於いては、本尊諷経、開山諷経及び檀信徒各家の先亡諷経、その後各住職への記念品授与、法話の順で進められました。管長猥下のご親教の意図するところは、各寺を訪問し、つぶさに実情を視察するところにあります。多少の差は見受けられることがあっても、概して境内の整備が十分に行き届き、住職と総代、檀信徒の皆さんとの意思疎通に満足され、「本山との関係を密に、車の両輪の如く、今後とも良好な関係を進めていきたい。それには皆様も是非本山へ足を運んでいただきたい。それによって、各寺院を通じて本山を身近に感じていただけるとい

う利点があります」と。勿論、内局からしましても御親教をもとに「各寺院の興隆」「檀信徒の信仰に依る安心」を念願する次第であります。

十月九日には方丈の修復落慶法要(於方丈)、次いで承天閣美術館の開館三十周年記念式典と円山応挙展開会式(於承天閣)が挙行されました。落慶法要では、かつて開催された「若冲展」の時に、宮内庁三の丸尚蔵館より元相国寺蔵であった因縁を踏まえて借用できた「動植綵絵三十幅」のレプリカの製作許可が下り、コロナイプでなおかつ原画との区別を明確にするため、表具に使用する裂地に変化を持たせて製作し、同様に完成した「釈迦三尊像」三幅対と共に方丈に掛けられました。

この三十幅は、観音懺法会せんぼうえにのみ使用可の条件が付されました。方丈での法要には、全大幅三十三幅を掛けて懺法会独特の「大磬だいけい、小磬しょうけいの打ち方」と「大悲呪だいひしゆぎの読誦法」を以って法要を厳修しました(本年からは三十三幅を掛けての懺法会となります)。中国から渡来された清拙正澄せいしやくしやうじやう(一二七四—一三三九)と同伴した石梁仁恭せきりやうにんきやう(一二六六—一三三四)とが、夢窓疎石むそうそしき(一二七五—一三五二)に宋の声明を伝えられたといわれています。そしてこの三師によって観音懺法の引曲の整備がなされた『鹿苑日録』にあります。

相国寺の声明しょうみやうは、往古から綿密めんみつさに於いて、「声明面しょうみやうめん」との言い伝えもあるように、厳しいものがありました。然るに、一山もここであらためて、若冲居士がご両親と弟さんの菩提を弔うために、当山へ生涯をかけて制作された多数の大幅を寄進された心情を汲んで、それに恥じないよう、更に年山の懺法声明に力を注ぎ以て報い、伝承への力強い決意を新たにしたいと考える次第であります。

最後に、最近の日本の国状がどんなにか不穏な状況を呈して来ている、と感じておいでの方も多いと思います。デフレ脱却、経済効果によって種々の恩恵が蒙られるとの単純な見方もあります。しかし、この半世紀余りの間に受けた日本の発展、享受した自由からは実に程遠い出発点に今立たされているのが現状と言えるでしょう。

言論の自由を享受し自由に発言出来た頃が懐かしかった、などと言わなくて済めばよろしいが……。行く先、お先真つ暗にならない様に、力を合わせて色々な分野の問題に取り組んで、身辺から日本の将来に至る迄、微細に分析して最善の道を探り、歩める様に皆の努力を結集して参りましょう。

本年もどうぞご健勝にて、変わらぬご法愛のほどよろしくお願い申し上げます。



管長有馬頼底猊下をはじめ、本派寺院、御住職並びに相国会会員、檀信徒のみならず、新春を迎え、ますます御健勝のことと拝察いたします。心よりお慶び申し上げます。

東日本大震災は発生から三年が経とうとしています。一瞬にして貴い生命を奪われた多くの犠牲者の御霊位に哀悼の意を表し黙祷いたします。悲惨な災害から復興すべく懸命に努めておられるお姿をテレビ等で拝見しています。一日も早い復興を祈念して止みません。

また、昨年十月十六日には伊豆大島に台風二十六号の記録的な大雨による土石流が発生。真夜中に集落が次々と土石流に呑み込まれ流され、多数の死者、行方不明者を出しました。誠に悲惨な悼ましいことです。多くの犠牲者のご冥福をお祈りいたします。同時に一日も早い復興を祈念いたします。

さて、昨年の行事を順にふり返ってみます。

四月二十一日(日)

相国寺大辨財尊天堂宇改築落慶法要が行われました。本殿、拝殿、絵馬堂、手水舎の四棟が立派に修復されました。福の神、芸術の神として親しく信仰を集めています。早速お詣りのお年寄りが絵馬堂でいっぷく。和やかに休憩されているのを拝見しました。

十月九日(水)

本山方丈修復落慶法要が挙行されました。見事に修復された方丈。厳粛な中、

さわやかな雰囲気の中で喜びと感謝の念に浸って  
いました。関係者のみなさまのご努力に心から感  
謝いたします。

承天閣美術館開館三十周年記念円山応挙展開会式  
が修復法要と同時に行われました。おめでとうござい  
ます。「わたしの『命』を懸けてやりとげる事業です。」  
有馬頼底館長の覚悟のひとつで美術館建設が決まった  
と仄聞そくぶんしています。立派な美術館には寺宝が整理され収納  
されました。美術館では、貴重な文化財や優れた芸術の作品  
を次々と展示、鑑賞者を魅了させて下さいました。館長の正  
しい判断力と決断力とさらに宗教的な慈悲の心で世界の人々  
の心を魅了し感動を与えたのです。これから先、いかなる感動  
の旋風がまき起こるか大いに期待するところです。



十月二十一日(月)

当山開山夢窓国師毎歳忌法要が厳修されました。開山夢窓国師の御遺徳を偲  
び、法灯をしっかりと守り継ぐ真摯な一山のみなさまの御心に心打られました。  
また、例年の如く地方から檀信徒のみなさまが百五十名ほど参詣されておられ  
ました。法要が一応終った段階で、信徒一同で、「般若心経」を唱してはいかが  
なものか。一人一人が自ら開山忌法要に参加した感動をさらに強くもち帰るこ  
とができるのではないか、そう思うのです。

『円明』第一〇〇号記念号が発刊されました。開山堂を「円明塔」というところ  
からの命名とか。大津樞堂老師の巻頭言に「ささやかなるこの伝道誌『円明』であ  
りますが、その名に恥じず大きな心の糧となり生活の共とすることを刊頭に当り  
ひたすら祈念します」とあります。今後のますますの御活用を祈念致します。

本年度は行事等が盛り沢山予定されています。よろしく御叱正の程御願いいた  
します。

# 相国寺方丈保存修理工事について

一般財団法人建築研究協会 辻 良平

## ◆はじめに

相国寺方丈では、平成二十二年九月一日から、屋根棧瓦葺き<sup>さんがるわぶ</sup>の全面葺き替え、木部・壁・建具・鋳金物<sup>かぎ</sup>・畳などの部分補修、耐震補強、電気設備・ガス設備の整備などの修理工事を行い、平成二十五年八月三十一日に予定通り竣工を迎えました。

本稿では、この度の工事の経過と、その過程で判明した事柄について報告します。

## ◆修理に至る経緯

現在の方丈は、天明八年（一七八八）に発生した「天明の大火」によって前身の方丈が失われた後に再建されたもので、文化四年（一八〇七）に上棟式が行われたことが記録に残されています。江戸時代後半に建てられ

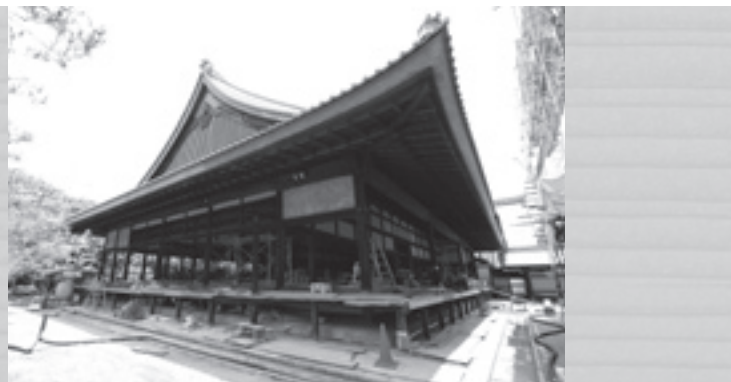
た大規模な方丈はほかに例が少なく、そのため、境内の他の建物九棟とともに、平成十九年三月に京都府指定有形文化財に指定されました。

方丈は建立以来、昭和三十八年（一九六三）の屋根葺き替え工事をはじめ、幾度かの修理と改造を繰り返しながら今日まで保存されてきましたが、最近になって、瓦の傷みや軒先の垂れ下がりが目立つようになってきましたので、屋根替え及び部分修理工事を計画しました。また、計画を立てる段階で建物の耐震診断を実施したところ、震度七程度の大地震が発生した際に倒壊する恐れがあることが分かりましたので、耐震補強工事を合わせて実施することにしました。

## ◆工事の経過と概要

まず、工事の大まかな工程を以下に示します。

着工	二十二年九月一日
素屋根建設	二十二年九月～十一月
屋根瓦解体	二十二年十二月～二十三年二月
木部解体	二十三年一月～四月
木部修理	二十三年五月～二十五年七月
屋根工事	二十三年八月～二十四年十一月
耐震補強工事	二十三年八月～二十四年七月



姿を現し内装工事中的の方丈



小屋裏補強（写真撮影◎株式会社 北村誠工務店）

左官工事	二十三年十一月～二十五年八月
銕金物工事	二十四年二月～二十五年八月
漆塗工事	二十四年三月～二十五年八月
建具工事	二十四年十月～二十五年八月
敷瓦修理	二十四年十二月～二十五年七月
畳工事	二十五年五月～二十五年八月
設備工事	二十四年三月～二十五年八月
落慶法要	二十五年十月九日

工事は、まず方丈の周囲に足場を設置し、建物全体を素屋根で覆うことから始めました。それから修理を行う範囲を屋根瓦から順にいったん解体していき、またそれにともない、解体時でなければできない建物の詳細な調査を行い、それに基づいて修理計画の修正を行いました。

建物の組み立ては、破損した箇所を取り換えや補修を中心に行いました。屋根瓦は二万枚以上に及ぶ瓦をほぼ全数新調しましたが、鬼瓦などごく一部だけは、保存の意味を含めて旧来の瓦を再び葺き直しました。

また、耐震補強工事では、屋根裏や床下、あるいは壁の中といった、竣工後は目に見えなくなる場所に補強材を設置し、大地震に見舞われても倒壊しないだけの強度を確保しました。

設備工事では、床下に新たにエアコンを設置したことをはじめ、ガスコンセントや防犯カメラの新設、避雷設備や電灯設備の改修など、多岐にわたる工事を行いました。

耐震補強工事や設備工事といった、今回新たに行う工事は、相国寺方丈の文化財としての価値をなるべく損なわないよう慎重に実施しました。例えば器具の取り付けは可能な限り元に戻すことができる方法を採用し、もし将来より良い手法が開発された場合には、そちらに切り替えることができるように配慮しています。

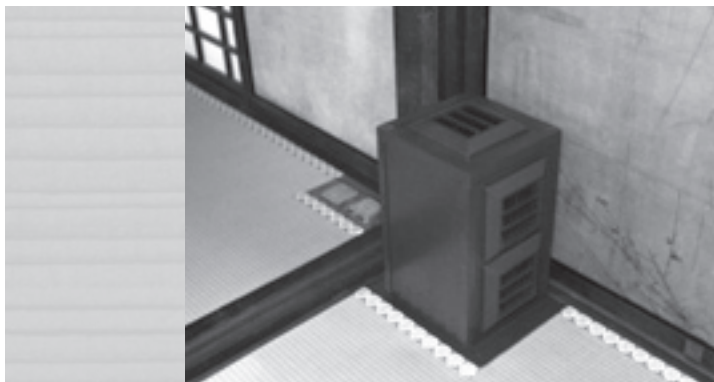
工事は順調に進捗し、平成二十五年八月三十一日に竣工を迎え、十月九日には落慶法要が営まれました。法要時には、方丈の室内に伊藤若冲が描いた「釈迦三尊図」どしよくさいえ「動植綵絵」の精密な複製が掛けられました。明治時代に原本が宮中に献納される以前は、年に一度、同じように方丈で一般に公開していたそうで、写本とはいえ、その壮観が百数十年ぶりに方丈に甦りました。

#### ◆調査事項

解体工事の過程で、これまで調査が行き届かなかった部分が明らかに、過去に行われた修理や改造に関して様々なことが判明しました。ここでは二つの事柄について説明します。



はねき 桔木補強 (写真撮影◎株式会社 北村誠工務店)



今回設置されたコンセント類と脱着式のエアコン吹き出し口(右)

## 屋根葺き形式の変遷

京都の方丈建築では、江戸時代後半から明治・大正にかけて、屋根葺きの材料に桧の皮を用いる「桧皮葺」や、薄く削った木の板を用いる「こけら葺」といった形式を瓦葺に変更することがよく行われていました。これは防火性や耐久性を考慮してのことです。

相国寺方丈においても、現在の棧瓦葺が建立当初からのものなのかどうかということは、工事前からの疑問の一つでした。今回の解体工事にもなう調査で、その疑問を解く材料として、以下の二点を得ることができました。

### (1) こけら板の発見

屋根をめくり、明るくなった状態で屋根裏を調べてみると、古いこけら板が数多く見つかりました。しかも、その板には風雨による摩滅の痕跡がはつきりと残っており、確かにかつて実際に使用されていたものであることがわかりました。

### (2) 小屋組の改造

屋根の荷重を支える母屋桁もやげたという部材をよく調べてみると、全体の半分はあとから追加された部材であることがわかりました。つまり、元来は現状の二分の一しか部材がなかったということになり、

これは明らかに、瓦葺よりもずっと軽い屋根を想定した形式です。

かつて使われていたこけら板が見つかり、また建物自体の改造もそれを裏付けているということで、方丈が建立当初はこけら葺であったことはほぼ確実となりました。

ただ、こけら葺から棧瓦葺への変更がいつ行われたかということまでは、残念ながら建物の調査だけではよくわかりませんでした。

## 縁廻りの改造

現在の方丈は、中央に六室の部屋があり、その四方に縁ひろえんが廻り、その外側にもう一段、手すりてすりと階段が設置された縁おちえん（落縁）が取り付けられています。

この落縁は東側以外の三方に取り付けられているのですが、そのうち西側と南側の縁東の一部から、さらにもう一段低い縁ぬれえん（濡縁）が取り付けられていた痕跡が発見されました。また勾欄こうらんと階段はどうやら当初からのものではなく、過去の修理で補足されたものであることもわかりました。

広縁、落縁、濡縁という三段階の縁を設ける形式は、方丈建築では一般的です。相国寺方丈も建立当初はその形式を採用していたようですが、過去のある時期に、もつとも外側の濡縁が撤去され、勾欄こうらんと階段を新設するという改造が行われたと考えられます。



今回の修復では現状の広縁、落縁の他に濡縁の痕跡が確認された



屋根部の解体により以前の痕跡もうかがえた (写真撮影◎株式会社 北村誠工務店)



このように、今回の工事では屋根と縁まわりにおける過去の改造が判明しましたが、維持管理の観点から復元は実施しないこととし、建物様式における修理前の状態からの変更は、装飾など細部だけに留めました。

#### ◆工事関係者

この度の工事では、大変多くの方々との協力を得ました。ここに主要な関係者の名前を記します。

設計監理 一般財団法人 建築研究協会  
工事請負 株式会社 北村誠工務店  
木工事 株式会社 北村誠工務店  
仮設工事 株式会社 湖上  
屋根工事 株式会社 寺本甚兵衛製瓦  
有限会社 宮川屋根工業  
左官工事 土橋左官店  
建具工事 有限会社 大西建具  
有限会社 矢口浩悦庵  
塗装・漆塗 漆芸  
有限会社 藤井豊店  
畳工事 有限会社 藤井豊店

鋳金物工事 モリモト社 寺工芸  
板金工事 田中板金  
電気設備工事 波多野電機  
防災設備工事 足立電気 株式会社  
避雷設備工事 有限会社 土橋電気設備  
木材納入 株式会社 金幸  
稲垣木材 株式会社  
庭園整備工事 長岡造園

#### ◆おわりに

文化財建造物の保存修理は、建物の価値を維持・継承するだけでなく、向上させることを目的としています。これから時が経ち、今回の保存修理が相国寺方丈の価値を高めたと評価されるようになれば、工事に携わったものとしてこれに勝る喜びはありません。

また、この度の工事の記録をまとめた修理工事報告書を現在作成中です。貴重な経験や資料を引き継ぐことはもちろんですが、今回得られた知見をほかの歴史的建造物や当時の社会状況と重ね合わせることで、方丈の歴史的価値をより豊かに描いていく一助になればと願っています。



方丈へ通じる回廊や唐門も補修された



計168枚の畳を入れるのも一苦労

平成二十五年 御親教日单

有馬頼底管長、山木康稔宗務総長、矢野謙堂教学部長、江上正道部員(記録・写真)、荒木泰量部員(随侍・侍衣)

9月26日

9時15分 先駆(教学部矢野・江上)本山出発

9時25分 先駆、長遠寺到着

9時45分 管長猯下、宗務総長本山出発

10時 管長、総長到着 境内にて多数の出席

えを受ける

到着茶礼

10時20分 殿聲五聲支度、全連声出頭、有馬管長、

山木宗務総長、矢野教学部長、長遠寺

藤井宗常住職、藤井実道閑栖が出頭

同教区福性寺吉田弘道住職が司会進行、是心寺和田賢明住職が殿司を務

める(二十六日)

茶道扶桑織部家元、智光斎 尾崎米栢

宗匠による献茶

一、般若心経、消災呪、本尊回向

11時30分 御親教終了

11時40分 先駆長遠寺出発、引き続き見送りを

受け管長、総長出発

11時50分 御親教終了

12時 先駆本山出発

12時10分 先駆是心寺に到着

12時20分 管長、総長本山出発

12時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時50分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

9月27日

二、大悲呪、開山回向

三、甘露門、檀信徒先亡回向

(※有住寺院は同式次第)

長遠寺へ御親教記念品贈呈

(管長猯下墨蹟書き下ろし)

管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶

檀信徒謝辞

総代 八木義夫氏

記念撮影

御親教終了

先駆長遠寺出発、引き続き見送りを

受け管長、総長出発

先駆大應寺到着

11時管長、総長到着 境内にて多数の

出迎えを受ける

到着茶礼後に昼食

御親教開教 管長、総長、教学部長、

12時 先駆本山出発

12時10分 先駆是心寺に到着

12時20分 管長、総長本山出発

12時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時50分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

12時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

13時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

14時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

15時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

16時55分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時15分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時30分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

17時45分 管長、総長到着、境内にて多数の出席

民館」到着  
昼食

12時30分 先駆長栄寺到着  
12時45分 管長、総長到着、境内にて多数のお出迎えを受ける

到着茶礼

13時 御親教開教、管長、総長、教学部長、長栄寺鈴木景雲住職、宗務支所長が出頭  
諷経後長栄寺へ御親教記念品贈呈

管長法話、総長、教学部長挨拶

檀信徒謝辞 総代 橋本宜嗣氏

記念撮影

14時30分 御親教終了

14時45分 先駆長栄寺出発、引続き見送りを受け  
管長、総長出発

14時50分 先駆無礙光院到着

15時 管長、総長到着、境内にて多数の出迎えを受ける

到着茶礼

15時15分 御親教開教 管長、総長、教学部長、無礙光院阪口慈航住職、宗務支所長が出頭

諷経後無礙光院へ御親教記念品贈呈

管長法話、総長、教学部長挨拶  
檀信徒謝辞 総代 山本克和氏  
記念撮影

16時35分 御親教終了、見送りを受け無礙光院  
を出発

16時55分 本山帰着

### 6月29日

8時30分 先駆本山出発

8時50分 管長 猥下、宗務総長本山出発

9時 先駆、桂徳院到着

9時20分 管長、総長到着 境内にて多数の出迎えを受ける

到着茶礼

9時35分 御親教開教 管長、総長、教学部長、桂

徳院小出量堂住職、宗務支所長が出頭  
同教区長遠寺藤井宗常住職が司会進行、大應寺久山弘祐住職が殿司を務める(二十九日)

諷経後桂徳院へ御親教記念品贈呈

管長法話、総長、教学部長挨拶

檀信徒謝辞 総代 西川 功氏

記念撮影

10時30分 御親教終了

10時40分 先駆桂徳院出発、引続き見送りを受け  
管長、総長出発

10時45分 先駆智蔵院到着

10時55分 管長、総長到着 境内にて多数の出迎えを受ける

到着茶礼

11時10分 御親教開教 管長、総長、教学部長、智蔵院小出量堂兼務住職、井上尊裕禅士、宗務支所長が出頭

一、般若心経、消災呪、本尊回向、開山回向

二、甘露門、檀信徒先亡回向

(※兼務寺院は同式次第)

諷経後智蔵院へ御親教記念品贈呈

管長法話、総長、教学部長挨拶

檀信徒謝辞 総代 本田元一氏

12時5分 御親教終了 一行見送りを受け智蔵院  
を出発

昼食後本山帰着



長遠寺

〒六〇二一八一六五 京都市上京区出水通千本西入尼ヶ崎横町三七一  
電話 〇七五一八一―一三九五三

山号 不退山

開創 寛永三年(一六二六)

開山 笑翁任可和尚

開基 笑翁任可和尚

本尊 釋迦如来坐像(伝運慶作)

脇侍その他 地藏菩薩像

伽藍構成 如意輪観音像(伝運慶作)

本堂 庫裡 書院 山門 藏

その他

住職 藤井宗常

閑栖和尚 藤井実道

年間行事 開山忌(四月十日) 春・秋彼岸会

お盆行事(八月) 祠堂法要(十月)

お経の会

●由来・沿革

長遠寺は寛永三年(一六二六)、興聖寺の二世無閑裏門禪師の弟子である笑翁任可しょうおんじんか禪師が創立して、開山となる。開山の弟子、二世候こうこくそ谷祖印いん禪師が、元禄六年(一六九三)に本堂・庫裡を再建。開山以来三百八十年を経過している。

本尊は釋迦三尊像で、中尊は木彫りの釋迦如来坐像、右の脇侍に木彫りの地藏菩薩半跏像、左の脇侍に木彫りの如意輪観音坐像である。この三尊像の組み合わせは非常に珍しいもので、中尊像の体内に納めてあった万治二年(一六五九)十一月十五日付、当寺開基の笑翁禪師自筆の巻物によれば、「当寺の本尊大恩教主釋迦如来尊像は、伝運慶所造にして高雄山中で火災に遭い、

損傷が甚しいものを受け、仏師の修復後、当寺の本尊とせしものである」とある。

当寺は元来、臨済宗興聖寺派しょうせい(上京区堀川寺之内)の末寺であった。明治新政府の神仏分離令による廃仏毀釈の混乱のなか、一般寺院もこのあたりを受けて廃寺や合併が進められた。当時、興聖寺には三十七ヶ寺の末寺があったが、そのうち第二教区では大雲寺、福性寺、大應寺、

長遠寺が興聖寺末であった。明治初年(一八六八)に興聖寺は大本山相国寺に併合され相国寺末となる。

昭和二十五年頃、興聖寺は独立して本山となった。このとき末寺七ヶ寺が相国寺から離脱し、そのほかの二十数ヶ寺は相国寺の末寺として現在に至っている。

大應寺

〒六〇二一〇〇七一 京都市上京区堀川通寺之内上る二丁目東入扇町七三二  
電話 〇七五四三一一一九二六

山号 金剛山

開創 天正十四年(一五八六)

開山 虚應円耳和尚

開基 意東律僧都

本尊 釋迦如来像

脇侍その他 迦葉尊者像・阿難尊者像

伽藍構成 山門 本堂 庫裡 織部稻荷社

住職 久山弘祐

年間行事 春・秋彼岸会

墓経・棚経・地藏盆

●由来・沿革

大應寺は天正十四年(一五八六)円耳和尚えんにによって師である日蓮宗の意東律僧都いとうりつを開基と

して悲田院の跡地に建立され、創建当初は日蓮宗であった。悲田院は平安時代に壇林皇后によって建立された、病人・貧窮者・孤児の救済施設である。室町時代の応仁の乱の時には、後花園天皇が室町殿にて崩御された時、火葬場として使用されたが、その後荒廃していた堂宇を円耳和尚は惜しみ由緒あるこの場所に当寺を建立したのである。そして、慶長四年（一五九九）建仁寺に投じて禅宗（兼密禪）に改めた。

慶長八年（一六〇三）古田織部が菩提寺建立のために、円耳和尚を請じて興聖寺を創建した。そして円耳和尚は当寺を第二世無閑和尚に付嘱して興聖寺の開山となった。その際、古田織部が伏見稲荷から勧請した織部稲荷社を当寺の鎮守社として祀られた。

慶長十年（一六〇五）朝鮮より松雲大師が文禄・慶長の役後の使節として来日した際、本法寺を宿舎としているが、滞在中の世話を円耳和尚が務め、松雲大師は「虚應」という字、「無染」という号を与えている。

慶長二十年（一六一五）虚應和尚は世良田の長楽寺に行脚し、慈眼大師（天海僧正）から葉上流の天台密教を伝えられた。また、興聖寺は勅願寺となり、当寺は興聖寺派に属することになった。

寛永年間初めに当寺が荒廃してくるのを案じ、虚應和尚に帰依していた古筆鑑定初代の古筆了佐が第三世碧雲和尚を請じて大檀那となり、古筆家の菩提寺として再興した。以後古筆家歴代やその門下の人々により護持されてきた。天明の大火に罹災するが、文化五年（一八〇八）に第八世香林和尚によって古筆家を中心に檀施をもって再建された。

江戸時代の間、興聖寺は兼密禪の寺として日光輪王寺の支配下にあったが、明治初年（一八六八）、興聖寺は末寺ともども相国寺派となり、戦後昭和二十五年（一九五〇）、興聖寺は独立して本山となる。その折、当寺を含む二十数ヶ寺は相国寺派の末寺としてとどまり現在に至る。

## 竹林寺

〒六〇六一〇〇六五 京都市左京区上高野八幡町二三  
電話 〇七五―七九一―八五三四

山号 淇澳山

開創 寛永十年（一六三三）

開山 静室閑公和尚

本尊 聖観世音菩薩像

伽藍構成 本堂 書院 庫裡 弁天堂

住職 牛江宗道

年間行事 施餓鬼会（八月二十四日）

達磨忌（十一月五日）

写経会（毎月第一水曜）

### ●由来・沿革

竹林寺は江戸時代前期、明正天皇の御代の寛永十年（一六三三）に静室閑公和尚により、閑静な上高野の地に創建された。時代は下って、江戸時代後期の嘉永元年（一八四八）当山第十四世衡陽杲公和尚により、詳しい経緯はわからないが、当寺は二年の歳月をかけて再建された。

また第十六世竺仙凡公和尚は、岡山市の曹源寺の出身の藪内流の大茶人であった。

さらに昭和の時代になって、第二十世萬籟山和尚は、六年在住の間に堂宇を修復し、信者より離れの増築や現存の弁天堂の寄進をうけた。第二十一世開安宗誠和尚の代に至り、西隣の清源庵跡地、山林の一部およびその道路を含めて買い入れ、境内地に編入し、山号を淇澳山とした。

また、第二十二世高林文栄和尚は、昭和二十三年から、平成七年遷化までに、数多くの普請をし、現在の竹林寺を築きあげた。昭和四十三年の本堂を改築にはじまり、以後客殿を兼ねた書院や方丈の新築、庫裡の改修と山門の新築をされた。その間に、裏山を自ら削り形を整え、みごとな石庭を造り、表の庭にも大改修を加え、風流佳絶な庭園に作り上げられた。

## 是心寺

〒六〇六一〇〇二一 京都市左京区岩倉忠在地町五九  
電話 〇七五―七九一―六八〇六

山号 小倉山  
開創 文禄元年(一五九二)  
開基 春隣西堂和尚  
本尊 釋迦如来像  
脇侍・その他 觀世音菩薩像二体  
伽藍構成 本堂兼庫裡 書院 十王堂  
住職 和田賢明  
閑栖和尚 長尾守峰  
年間行事 春・秋彼岸施餓鬼会

### ●由来・沿革

岩倉宝ヶ池京都国際会館の北、天台宗の門跡寺院実相院の筋向かいに小倉山(岩倉城の砦址)があり、その西側の麓に是心寺がある。是心寺は相国寺の塔頭・慈照院の末寺として、文禄元年(一五九二)の創建で、開基は春隣周和尚(慈照院第七世本源国師の法を継ぐ)。

本尊は釋迦如来像で左右に觀世音菩薩像を安置する。寛保三年(一七四三)六月の山城國愛宕郡岩倉村差出し明細帳(岩倉在各社寺に關して、すべてを役所に報告した記録)によると、岩倉村だけで寺院二十七ヶ寺を数え、明治十二年(一八七九)頃二十五ヶ寺中、相国寺塔頭寺院の末寺が七ヶ寺あり、そのうちの洞雲庵、慈雲庵、法華庵、永昌庵、梅隱庵の五ヶ寺が是心寺に合併され、後の二ヶ寺は廢寺となった。  
明治十九年(一八八六)、相国寺初代管長・獨園禪師の意志を受けて、当時の檀徒の努力により、現在の是心寺が再建され、平成四年(一九九二)本堂兼庫裡の増改築、書院の新築をなした。

富山の國泰寺初代管長に就任した瑞雲義寛禪師が明治二十一年(一八八八)、獨園禪師の命を受けて是心寺に七、八年住している。明治十

年(一八七七)、岩倉街道から木野村へ向かう道の岩倉川にかかる十王橋の畔にあつた十王堂(通称閻魔堂)が、是心寺に移築された。堂内は閻魔王を中心に司録、司命、奪衣婆の三像、合

せて十三像を祀り、右側に地藏菩薩大小像、左側に千手觀音、大小諸仏、大黒天像(相国寺塔頭慈照院の大黒天と同じいわれの二体の内の一)を祀り、是心寺山門前にある。

## 長栄寺

〒六〇六一〇〇二四 京都市左京区岩倉花園町四三四  
電話 〇七五―七八一―七六九〇

山号 円通山  
開創 慶長六年(一六〇二)  
開山 竹叟宗賢禪師  
本尊 十一面千手觀音像  
脇侍・その他 十一面千手觀音像(等身大)  
伽藍構成 山門 方丈 庫裡  
住職 鈴木景雲  
年間行事 彼岸法要(二月)

### ●由来・沿革

墓参・棚経(八月)  
彼岸山門施餓鬼(九月)  
地藏盆法話 施餓鬼法話

長栄寺の建つ洛北花園の歴史は、花園法皇が南北朝時代に洛西花園に妙心寺を創建(一三三七)した事に始まる。この折この付近にある清原夏野(華園右大臣・七八二〜八三七)の家領地で、代々百花を育てて住んでいた住人が立ち退きとなり、その代替地として洛北の地に移り住んだ。そして元の地名「花園」をそのまま付けた事によると云われる。そしてこの花園村に天台宗三井寺(園城寺)三千坊の一、長栄寺が建立される。しかしこの寺は元龜二年

(二五七二)織田信長の比叡山焼き討ちのあおりを受け灰燼に帰した。

その後、慶長六年(一六〇二)相国寺の竹叟宗賢禪師によつて復興され、これより臨済宗相国寺派となり、村人は禅宗信徒となる。また徳川幕府より安堵された相国寺の寺領千六百六十石の内七十一石が、花園村内にあり、長栄寺はその寺領の管理も兼ねていた。また村内に、三

井寺派時代に建てられた観音堂なる庵が明治維新まで存在し、鎌倉時代に造られた等身大の十一面千手観音が祀られていた。現在もこの観音様は長栄寺に安置されている。

戦中に三代前の管長山崎大耕老師が本山開山堂の夢窓疎石像と共に疎開しておられ、村人と親しく接しておられた。



## 無礙光院

〒六〇六一八一〇二 京都市左京区高野清水町六五  
電話 〇七五―七八一―一二二七

山号 瑞寶山

開創 延寶七年(一六七九)

開山 法蓮社聽誉上人求願和尚

本尊 釋迦如来像(推定室町末期)

脇侍・その他 聖観音像 地藏菩薩像

中興開山坐像 観音石像

六地藏石像

伽藍構成 山門 本堂 庫裡 隠寮 地藏堂

稲荷社

住職 阪口慈航

年間行事 春秋彼岸中日法要 盆棚経

地藏盆 坐禅会 写経会

### ●由来・沿革

無礙光院は、江戸時代初めの延寶七年(一六七九)の創建で、開山は法蓮社聽誉上人求願和尚。この僧名からも明らかのように、当初

は浄土宗で、寺の名も「求願寺」と称されていた。

当院は、一般に新田街道と呼ばれる街道(別名大原街道・若狭街道・敦賀街道・鯖街道)に面している。この街道は十七世紀後半の寛文年間(1661-1716)に切り拓かれ、左京区八瀬・大原から花折峠・朽木をへて日本海若狭まで通じる、かつてのメインストリートであった。この街道が完成した十数年後に、当院が創建されたことになる。

その後、享保十九年(一七三四)に無礙光庵と改称。一八〇〇年代に入つて、臨済宗の山元識が再興し、中興開山となる。次の中興第二世が宥峯禪師、三世が仰山祖鉄禪師と続いて、幕末を迎える。明治の廃佛毀釈期の無住職期間を経て、明治二十九年(一八九六)に桜井亨道尼が住職となり、以後相国寺派に属す。

明治四十二年(一九〇九)、玉田妙順尼が住職となり、仏事の依頼や墓地・檀徒が増加。その

ため大正十二年（一九二三）、北垣国道男爵（京都府知事）の遺邸を買いとり、移築・改造して新しい本堂とする。

昭和五十六年に新しい庫裡が完成。平成十五年（二〇〇三）秋には開山三百年遠諱を厳修し、その際、新しい山門も落慶した。

## 桂徳院

〒六〇一―一二四八 京都市左京区大原草生町五七  
電話 〇七五―七四四―三三三九

山号 大圓山

開創 延徳年間（一四八九―九二）

開山 石田和尚

本尊 阿弥陀如来像（鎌倉期推測）

伽藍構成 本堂兼庫裡 観音堂

住職 小出量堂

年間行事 お盆施餓鬼会 初祈祷

野上り祈祷 湯立祈祷

院が控える大原草生の里にある。境内は、寂光院より東へ百メートル程の水谷山麓の小高所、山号は大圓山という。

相国寺第三世の空谷明應禪師（常光国師一三二八―一四〇七年）の法孫、石田和尚を開山として、室町時代応永年間（一三九四―一四二八年）に創建され、本尊には阿弥陀如来像を安置している。相国寺山内常徳院（空谷明應を開山とし、現在は大光明寺に合併され廃院を本院とし、また草生町内に寿光庵という末寺が在ったようである。本尊の阿弥陀如来像、庭の五輪の塔はいずれも鎌倉時代のもので云われ、室町時代に禅

### ●由来・沿革

大原盆地の西北・翠黛山を南に、焼杉山・水谷山を北にした谷、西の奥に建礼門院の御陵・寂光

寺となる前は天台宗の寺だったと云われている。

大正十五年の火災で記録が失われ、寺の歴史は詳らかではないが、現在の建物は昭和の初めに造られたもので、本堂兼庫裏の南北五間・東西六間程の入母屋瓦葺の小さな寺である。現在の境内は、鹿苑寺庭師棟梁の平安林泉・玉根徳

四郎氏により平成五年に作庭された心学池を中心とし、周囲の山と一体となった苔庭が在り、秋には一面の紅葉が見事で幽寂な寺である。大原草生町の寺として、町内の大半を檀家としており、表通りから離れていて極めて閑かな山寺である。

## 智藏院

〒六〇一―一二四七 京都市左京区大原野村町五六  
電話 〇七五―七四四―二一〇八

山号 宝泉山

開創 天正元年（一五七三）頃

開山 陽山周春和尚

本尊 釋迦如来像

脇侍その他 達磨大師像

臨濟禪師（天保二年三月安置の銘あり）

伽藍構成 方丈 庫裡 書院 弁財天 鎮守

住職 小出量堂（兼務）

徒弟 井上尊裕

年間行事 年賀（二月二日）

盆施餓鬼（八月十五日）

### ●由来・沿革

智藏院に関しての資料は全くないが、古い過去帳によると永禄二年（一五五九）二月十二日、当寺の檀家の葬儀が見えるので、その当時から、小庵としてあったことが確認されるので、創建は室町後期頃と思われる。また開山の陽山周春



和尚は天正十九年（一五九二）六月二十三日に示寂（死去）されている。

現在の建物は明治十年（一八七七）頃に増築され、今日に至る。本尊は釋迦如来像である。当寺裏山のあたりには、平安中期の歌僧・良暹法師（康平年間一〇五八〜一〇六五）が住んでいたとされ、良暹山あるいは良暹谷の名がある。法師は、比叡天台祇園の別当で、晩年大原に隱棲したとされている。

『後拾遺集』に採られた「淋しさに宿を立ち出でながむれば いづこも同じ秋の夕暮れ」の歌は、このあたりを眺めて詠んだのであろう。

きれいな泉が湧き出るところから宝泉山とつけられた山の谷から、今でも清水が流れており、当寺では昔から飲料水として使用している。過去帳によると寛永十六年（一六三九）十月十六日、和氣氏の田地山林を寺に寄附し、永代に渡り供養を願い出たと記されている。



第二教区

御親教  
感想文

管長猯下御親教を拝して

長遠寺総代 八木義夫

待ちに待った御親教の日です。其の朝、御住職を始め檀信徒一同が願った通りの爽やかな秋晴れのもと、有馬頼底管長猯下の御一行をお迎え出来、晴れ晴れしい気持ちで一杯でした。併せて、身近に、柔和でにこやかな御尊顔を拝し、一同、深く心の和みを覚えた次第です。

庭を横に、赤毛氈を敷いた廊下を進んで頂き、書院で茶道扶桑織部智光斎尾崎米栢宗匠家元の茶礼の後、本堂にて出頭の鐘を合図に管長猯下大導師のもと法要が始まり、檀信徒も共に般若心経、消災呪、御本尊回向・大悲呪・開山回向・甘露門、檀信徒先亡回向を唱和させて頂きました。続いて記念品の御贈呈を賜り、末永く、当寺院の至宝とさせて頂く喜びに浸った次第でした。

管長猯下から「このお寺は閑栖、住職共に居られ、非常にうまく維持されている。又、寛永三年

創建の歴史あるお寺で、御本尊のお釋迦様も運慶作の仏像です」とのお褒めのお言葉を頂戴し、一同、新に深く感銘致しました。

法話では「全ての生物に、命が有り、戦争は其の命を滅ぼすものだ」とのお言葉を頂き、日頃日常の生活に追われ、大切な物を忘れかけていた私達に気付かせ、心の中に暖かい灯りを灯して頂きました。又、管長猯下は長年に亘り、檀信徒から全国へ、更には世界へ向けてその平和活動を一心に進めてこられた事にも深い感銘を覚えました。

宗務総長様の御挨拶では、人への思いやりの気持ちの大切さをお説きになり、家族内から始まるものが更にどんどん大きな輪に成りやがては世界を平和で包んで欲しい、とおっしゃっている様に伝わってきました。教学部長のお話し

の後、管長猥下を中心に、又とない機会に恵まれて、和やかに全員での記念撮影を撮らせて頂きました。

管長猥下をお見送りした際、誠に慈悲深いお顔で、軽く会釈されてお車に乗られるお姿を拝見し、あらためて御親教の意義を認識致すと共に大きな喜び、深い感動を受けた事でした。更に、今日の御教えを心に抱き、今後末長く、お寺さん

と御先祖様とをお守りする事を檀信徒一同、心を一つにして遂行致したく思いました。

最後に成りましたが、有馬頼底管長猥下、並びに御随行の山木宗務総長様、矢野教学部長様始め、万端の御指導下さいました相国寺派各寺院様、第二教区御寺院様方に長遠寺檀信徒を代表致しまして、心より厚く御礼申し上げる次第で御座います。誠に有難う御座いました。

## 第二教区 御親教 感想文

### 管長猥下御親教を拝して

大應寺総代 波多野外茂治

相国寺派の全末寺を隅無く回寺して御親教を開教したいとの有馬頼底管長猥下の長年の悲願は、第六教区の末寺に発して第二教区の末寺に至る迄、実に十年の長い歳月を掛けて実現されました。

遡る事七十年前、第四代管長山崎大耕老師が

御親教を開教されました。それ以後今日迄執行われていなかったのですが、有馬頼底猥下の強い願いで七十年振りに御親教が復活再開されたのです。京都府下の第二教区十三ヶ寺は、二十四年度と二十五年度に掛けて御親教を賜りました。残る所は沖繩の一ヶ寺と大阪天王寺

に在る一ヶ寺のみとなり、二十六年度を持って満願完了する運びとなりました。誠に、有馬頼底管長猥下の弛み無い努力と強い信念、加えて一山宗門の皆々様の御尽力に依り実現したものと檀信徒一同心より感謝致して居ります。

第二教区金剛山大應寺に回寺されたのは、平成二十五年九月二十六日、爽やかな秋晴に恵まれた佳き日でした。午前十一時、有馬頼底管長猥下、山木康稔宗務総長様、矢野謙堂教学部長様、一門の和尚様をお迎えする事が出来ました。茶礼の後、本堂出頭の鐘が響く中を入堂、管長猥下大導師のもと御親教が厳かに開教されました。御本尊回向(当山の御本尊は釈迦如来)、続きましては御開山回向(当山の御開山は虚應こちやう禅師)、更に檀信徒各家先祖回向が重厚に響き渡る読経のもと厳肅に恙無く執り行われました。その間檀信徒も「摩訶般若波羅蜜多心経」を唱和させて頂きました。続いて管長猥下の墨蹟一幅を記念品として授与下さりました。有難く末長く寺の宝とさせて頂きます。

次に管長猥下の御法話を拝聴させて頂きました。お釈迦様の教本の根本理念「山川草木悉

皆成仏」の意義を説かれました。この世に存在する総てのものは草木一本、路傍の石塊に至るまで仏性を持ち合わせている。だからこそ我々人間に於いてはこれを大切にし、決して殺戮殺生を行ってはならない。今日ほど「不殺生戒」の教えを守る事が大切な時はない。戦争反対、核兵器廃絶、原発を一日も早く廃止すべきであると強調されました。この教えを大切に守って行く事こそ我々仏教徒の務めであるとも説かれました。平易な言葉で解り易く内容の深い慈愛に満ちた御法話でした。一同深い感銘を受けました。管長猥下よりかくも間近に親しく教えを賜り、またとない良き仏縁を頂きました。これから後の生きる大切な糧とさせて頂きます。次に山木康稔宗務総長様、矢野謙堂教学部長様からもそれぞれ暖かな励ましのお言葉を賜りました。有難く感謝申し上げます。

相国寺の末寺である事を誇りと思ひ、住職檀

信徒一同一丸となって寺の法灯を守り次の世代に譲り渡すよう努力してまいります。

最後になりましたが、管長猥下を始め、一門

の皆様方の御健勝を祈念しますと共に、大本山の相国寺の御発展をお祈り申し上げます。

第二教区  
御親教  
感想文

## 竹林寺御親教を拝して

竹林寺総代 宮野巳代次

秋風の吹く涼しい日、九月二十六日午後二時半、我々竹林寺檀信徒一同は、有馬頼底管長猥下御一行をお迎えして御親教を賜りました。

檀信徒全員が山門の前に並んで、朱傘をめされた管長猥下を拍手でお迎えさせて頂き感無量となりました。

この日を迎えるにあたり、建物境内の整備等につとめ失礼なきよう準備をして参りましたが、その至らなかつたところはお許し願いたく思っています。

さて、当日は管長猥下をお導師に、山木康稔

宗務総長様、矢野謙堂教学部長様、第二教区の和尚様方によって、厳粛な法要をとり行つて頂き、檀信徒一同誠に有難く思いました。

法要のあと、管長猥下から法話を賜りましたが、その中で管長猥下が、「草木国土悉皆成仏と言つて、草木の一本、石ころのひとつに至るまですべて仏様であるから、決して殺しあつてはいけない。戦争をしてはいけない」と話されたことが、深く心に残っております。

また、当山は、本山塔頭慈雲院の第四世香甫愛集和尚をつがれた静室しやうしつ閑公和尚を御開山と

して、寛永十年（一六三三）に創建されました。昨年（二〇一三）は三百八十年の節目の年となりました。小さいながらも美しい庭と本堂・客

殿等の建物は、すべて当山第二十二世高村文栄和尚様が心血を注いで造られたものであります。

また、三年前に遷化なされた、永源寺派管長篠原大雄老大師は、当山第二十三世でございます。

我々檀信徒は力を合わせて、この歴史を伝統のある竹林寺を現住職当山第二十四世牛江宗

道和尚とともに、守り育てさらにさらに発展させてゆく所存でございます。

最後になりましたが、有馬頼底管長猥下、山木康稔宗務総長様、矢野謙堂教学部長様、本山御一行の皆様方の御親教を賜り、改めて感謝申し上げますとともに、ご本山の益々のご発展をお祈り申し上げます。このたびは誠にありがとうございました。



## 是心寺御親教を拝して

是心寺総代 大角浩太郎

今年とは異常な天候に見舞われ、大変雨が少ないと思えば、台風十八号は全国に大雨による災害を残して行きました。幸いなことに、その一週間後の九月二十七日は、すばらしく秋らしい晴天に恵まれ、管長様ご一行を、お迎えして御親教を賜ることが出来ました。大変有難いことございました。

今までにも、当是心寺には管長様をはじめ宗務総長様ほか多くの和尚様方に法要に出席して頂いてはおりましたが、今回の御親教で初めて管長様のご法話をはじめ、宗務総長様、教学部長様のご挨拶を頂き、檀信徒一同、非常に感銘を受けました。

御親教について全く無智な私達檀信徒は、清掃、準備から一切合財、住職様にお世話頂き、協力らしき事も出来なかつた事が、御親教が終つ

てからやつと解り、恥ずかしい思いが致します。

御親教では、まず管長様のご法話を拝聴し平和の尊さを改めて感じ、又宗務総長様より寺院の「山号」について、教学部長様より機関誌『円明』についてのお話を有難く承りました。

古村誌によりますと、是心寺は今から三二五年前の元禄元年（一六八八）に、相国寺の末寺として創建され、明治時代に数ヶ寺との統廃合により現在の是心寺となったとあります。私達の先祖より、この由緒ある寺の檀信徒であった事は大変幸せな事と思っております。

昨今の世相は、大変目まぐるしく変動し、マスコミの報道は連日のように荒れた様子、痛ましいニュースを報じていますが、二千五百年前のお釈迦様や孔子様に教えて頂いた、人としての生き方は一体どうなったのでしょうか。

御親教のあと、管長様を真ん中に、参加者全員、記念写真におさまりましたが、忘れられない大変良い思い出、記念となることと思います。最後に、ご多忙中にもかかわらず、お越し頂きました管長様、本山の役員様、第二教区支所

長様はじめ、お世話頂きました和尚様方に厚くお礼申し上げます。何かと不行届が多々ありました事、ご容赦お願い致します。誠に有難うございました。

## 長栄寺御親教にめぐり合わせて

長栄寺総代 橋本宜嗣

平成二十五年秋に、長栄寺に於いて相国寺派有馬頼底管長の御親教が行われる事は、三年前より住職からお聞きしておりました。この間幾度も総代会議を開き、打ち合わせを重ねてまいりました。平成二十四年九月二十六日、亀岡の大雲寺様と福性寺様で御親教があると住職よりお聞きしたので、住職と総代で両寺に下見に参加させて頂き、行事、内容をしっかりと確認、前日までに準備を万端に整えました。長栄寺で

の御親教は七十年ぶりの事です。

晴天に恵まれた九月二十七日午後十二時四十五分、参道で多数の檀信徒が出迎える中、管長様御一行様が到着され、長栄寺檀信徒一同は合掌でお迎えしました。管長様下は、親しく笑顔で会釈されながら本堂へ入っていかれました。しばらく休息、茶礼の後、午後一時、五十人程の檀信徒が参列する本堂で、厳肅かつ和やかな雰囲気御親教が始まりました。読経

が終わり管長猥下の法話を拝聴しました。

長栄寺の本堂室中には『円通山』、隣の下間には『長栄』の扁額が掛かっております。管長猥下がおっしゃるには「この扁額を揮毫された方は、三代前の相国寺派管長山崎大耕老師です。大耕老師は戦中に、相国寺開山夢窓疎石の像と共にここ長栄寺に疎開されておられました。故に、相国寺の僧侶は開山忌にはこの長栄寺へ出頭して諷経(読経)しておりました。また『円通』とは観音様の大慈悲を表す称号です。長栄寺の本尊様『十一面観音』は、『南無観世音菩薩』と唱えると、如何なる災難からも救って下さる菩薩様です。」とのこと。そして、「お釈迦様は悟りを得た(成道)とき、『山川草木悉皆成仏』という言葉を発表されました。山も川も、草も木も、みな仏なのです。成仏とは命の輝きです。ここにおられる皆様も仏なのです。」と誠に感慨無量のお話を伺うことができました。

また「長栄寺の鈴木住職は、私が館長をしております『相国寺承天閣美術館』の事務局長で

す。国宝・重要文化財を含む多くの文化財の管

理と美術館の展示企画を行っています。それ故大変忙しい。檀信徒の皆様が協力してお寺を護持していただきたい。」とお言葉もありました。本山における住職の担っている責務を、あらためて知ることができました。私たちは管長様から鈴木住職にこのようなお褒めの言葉をいただくことは大変誇りに思っております有難うございました。『人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。』と経典に書いてございました。この度、管長猥下の御親教にめぐり合わせた事も、『仏縁』とありがたく思っております。正に『百千万劫にも遭い遇うこと難し。』でございます。

最後にこの御親教にお世話になりました本山宗務総長山木様、教学部長矢野様、教区の各和尚様方、そしてご参加いただきました檀信徒の皆様には厚く御礼申し上げます。

## 第二教区 御親教 感想文

### 無礙光院御親教を拝して

無礙光院総代 山本克和

御親教前日の九月二十六日、山門より内玄関、本堂、駐車場に至って、当山住職家族一同と寺総代三名、お手伝いの女性三名が式場設定に専念し、夕刻までに三分の二程度できました。

九月二十七日午前中には山門、玄関、本堂側の幕張りも終了。小休止後、式典打合せ等を済ませ管長猥下一行様の到着を待つのみ……。

そして定刻の午後三時、山門前に到着。管長猥下一行様、当山無礙光院に御来院されました。本堂(式場)へお迎えし司会者進行のもと、読経により管長猥下の御親教が始まり、続いて宗務総長、教学部長の皆様有難いお言葉を拝聴いたし、大変お世話になりました。

管長様に間近でお会いできたことは、私共檀信徒の皆にとりまして最良の体験です。あらためて心よりお礼申し上げます。

当日式典の終わりに総代の謝辞があり、その内容は私事ですが、去る平成九年度、私共夫婦は本山相国寺「法堂」に於いて「授戒会」に参加し、管長様より直々に『戒脈』、輪袈裟、浄衣、他に記念品等を授与していただいた事も述べました。生涯忘れ難く、私の人生の大きな宝物となっております。管長様のお姿を拝見するのも、その時が初めてでした。改めて感謝いたします。誠に有難うございました。

管長猥下におかれましては、今後ともお体を大切に、益々の御健勝を祈念いたします。また、私たちをお導き賜りますよう、伏してお願ひ申し上げます。

合掌

## 管長猯下御親教を拝して

桂徳院総代

西川 功  
川端 武雄

豊かな自然に恵まれた大原の里の山裾に位置する桂徳院において、九月二十九日、御親教が執り行われました。今年の夏は、記録的な猛暑が続く厳しい残暑が続きましたが、ようやくしのぎやすい季節になり、当日は爽やかな秋晴れに恵まれ、午前九時二十分、多数の檀信徒がお迎えする中、有馬頼底管長猯下御一行がお着きになりました。

管長猯下は、合掌、拍手してお迎えする私たちに、にこやかな笑顔で会釈されながら、控室の公民館にお入りになりました。茶礼の後、桂徳院にお移りいただいて、管長猯下ご導師の下、法要が厳かにとどこおりなく執り行われ、その後、記念品授与がございました。

続いての管長様の御法話は、当山桂徳院のお話などを、優しい柔和な表情で、ユーモアを交

えてご教導賜り、興味深く拝聴させていただくことができました。御法話の後、山木宗務総長様、矢野教学部長様から、坐禅のお話や日々の生活についての教え、御親教や昭和三十八年の創刊以来一〇〇号の節目を迎えた機関誌『円明』のことなど丁寧なご挨拶をいただき、本山が身近に感じられることができました。

有馬管長猯下が平成十五年に、六十年ぶりにお始めになった「御親教」は、第二教区二回目の今回で十一年目となり、今年予定されている沖縄県と大阪市と第一教区を除くすべてを終えられたと伺っております。心よりお慶び申し上げますとともに、海外へのご出張や国内を東奔西走のご活躍をされている管長猯下、宗務総長様をはじめ関係の皆様方の御努力に対し、深甚なる敬意を申し上げます。

私どもの桂徳院では、毎月、御住職に御足労いただく「月参り」のほか、お盆と正月に、檀家の皆さんがお寺にお参りに行く機会などがございます。昨年の「盂蘭盆会・施餓鬼会」には私たち年寄りから小さな子どもさんまで、多くの皆さんがお参りになりました。そのほか、御住職にお出ましいただく地元の行事もございます。

そうしたことから、お寺と檀信徒とのつながりは比較的多いかと思っておりますが、今回の御親教により、地元の皆様にも、準備等についてのご協力や、当日、多くのご出席をいただいたことなど、お寺と檀信徒との関係、更には、本山とのつながり、絆が、より深まったのではないかと感じた次第です。

なによりも、管長様と間近に接し、管長様のお人柄に直接触れることができ、本山の宗務総長様、教学部長様から本山のお考えなどをお聞きする機会が得られましたことは、私ども檀信徒にとって、この上ない大変意義深い機会であったと感謝しております。

有馬管長猯下におかれては、大変お忙しい中、御身おいといただき、今後とも、あらゆる機会やお盆、正月に頂く『円明』を通じて、御教導賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、大本山相国寺の益々の御発展と有馬頼底管長猯下、本山の和尚様、お世話になりました教区の和尚様、桂徳院住職様をはじめ地元の皆様方に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。



## 智藏院御親教を拝して

智藏院総代 本田元一

猛暑だった夏も終り、稲刈りも一通り作業を終え、田んぼには彼岸花が咲き過ぎし易い季節のことで御座いました。

当日は、御法話を賜りました有馬頼底猥下をはじめ御挨拶を頂戴いただきました山木宗務総長、矢野教学部長そして御支援頂きました相国寺御一同様には篤く御礼申し上げます。

管長猥下をはじめ大本山相国寺の御一行様を智藏院にお迎えし、御親教を実施して頂いたことは、私にとりましては身に余る光栄であり、また檀信徒にとりまして、これ以上の喜びはございません。本当にありがとうございます。一昨年智藏院の徒弟様より「御親教がありません」とのお話が有りました。しかし檀信徒のなかにはだれも記憶している者がおらず、おそらく初めてではないかとの事で、檀信徒の心は不

安と期待でいっぱいでした。

今迄誰も経験した事の無い御親教を賜るにあたり、手探り状態で段取りに困難を極めましたが、床板や障子の張替えや庭の剪定など少しずつですが準備を行い、我々の想いは広がってゆき、最終的にはたくさんの人に支えられ、万全とは申せないまでもこれは檀信徒の智藏院に対する想いの賜物だと思っております。

御親教の開催準備から運営にあたり、数々の不行届きがあったものと存じます。寛容を賜ることが出来ましたら幸甚と存じます。

また御兼務の桂徳院様をはじめ、今回の御親教にお世話になった第二教区の各寺院様方に厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、有馬管長猥下ならびに相国寺本山、檀信徒の皆様方の御発展と御健勝

をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。  
誠に有難う御座いました。



# 承天閣美術館 開館三十周年 承天閣美術館のあゆみ

昭和56年11月12日 宝物館「相国寺霊宝殿(承天閣)」起工式

58年度 6月1日 承天閣美術館竣工式

59年度 4月15日 承天閣落慶法要並記念茶会 裏千家

4月17日 同 表千家

4月20日 同 宗徧流

4月22日～6月24日 開館記念相国寺名宝展「相国寺名宝展」図録刊行

7月7日～9月9日 夏季常設展(伝来の名画展)

9月15日～12月16日 鹿苑寺名宝展「鹿苑寺名宝展」図録刊行

11月1日～12月9日 京阪バス 京の秋美術館めぐりMLコース参入

昭和60年1月4日～3月31日 新春特別名宝展

1月12日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入

60年度 4月6日～7月7日 慈照寺名宝展「慈照寺名宝展」図録刊行

7月13日～9月29日 夏季常設展(頂相仏画道釈画を中心に)

10月5日～12月22日 秋季特別展(伝来の陶磁器を中心に)

11月1日～10日 古文協秋の特別拝観参入

12月1日～昭和61年3月31日 京の冬の旅うるわしコース参入

昭和61年1月4日～3月30日 新春特別展(墨蹟名宝展)



開館記念「相国寺名宝展」ポスター

61年度 4月5日～6月29日 春季特別展(伝来の絵画を中心に)

7月5日～9月28日 夏季常設展(達磨像祖師像を中心に)

10月4日～12月21日 秋季特別展(禪と茶道展)

11月2日～11月16日 光悦と寛永文化展「光悦と寛永文化展」図録刊行

11月2日 本阿弥光悦建碑記念茶会

昭和62年1月4日～3月29日 新春特別展(室町時代の墨蹟絵画を中心に)

62年度 4月5日～6月28日 春季名画展(中世の絵画を中心に)

7月5日～9月27日 夏季特別展(近世の宸翰と墨蹟を中心に)

10月4日～12月20日 鹿苑寺秘宝展(金閣大修理記念展)

昭和63年1月5日～3月27日 近世禅林美術展(辰歳に因んで龍特集を並設)

63年度 4月3日～8月28日 橋本独山展(五十回諱記念)「橋本独山」図録刊行

9月4日～12月18日 中国請来の墨蹟・絵画・陶磁器展

平成元年1月7日～3月31日 金閣寺・銀閣寺茶の湯名宝展

1月14日～3月18日 京の冬の旅わびコース参入

平成元年度 4月8日～12月17日 春日局と海北友松展

7月22日～9月30日 京の夏の旅参入 春日の局京都ゆかりの旅

8月～平成2年4月 「若冲展」開催場所 ロサンゼルスカウンティ美術館

釈迦三尊像・鹿苑寺大書院襖絵 出品

1月7日～3月25日 伝来の障壁画展



2年度 4月1日～12月2日 利休と豊臣秀吉茶の湯展(千利休四百回忌奉賛)

『千利休』図録刊行

11月1日～12日 古文協秋の特別拝観参入

12月9日～平成3年3月31日 足利家と室町文化展 前期

NHK大河ドラマ「足利尊氏」協賛

平成3年1月12日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入「室町文化の粋をたずねて」

相国寺創建六百年記念「相国寺・鹿苑寺・慈照寺名宝展」開催

平成3年1月17日～5月7日 開催場所 東京高島屋

2月14日～3月5日 開催場所 大阪高島屋

3月14日～3月26日 開催場所 横浜高島屋

5月2日～5月7日 開催場所 名古屋丸栄

主催読売新聞『相国寺・金閣・銀閣名宝展』図録刊行

3年度 4月1日～12月1日 足利家と室町文化展 後期

12月6日～平成4年3月31日 信長と武将達の茶ノ湯展 前期

11月1日～10日 古文協秋の特別拝観参入

4年度 4月1日～12月6日 信長と武将達の茶ノ湯展 後期

NHK大河ドラマ「織田信長」協賛

12月14日～平成5年3月31日 伝来の中国美術展 前期

5年度 4月1日～12月4日 伝来の中国美術展 後期

建都二〇〇年プレイベント

4月1日～11月28日 嵯峨野ロマン・京ロマン展参入

平成6年1月3日～3月31日 足利家と東山文化展 前期

1月14日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入

相国寺創建六百年記念「相国寺・金閣寺・銀閣寺名宝展」開催

10月23日～11月23日 開催場所 三島佐野美術館

6年度 4月1日～12月13日 足利家と東山文化展

NHK大河ドラマ「花の乱」協賛

4月1日～11月6日 京阪定期観光バス参入 花の乱(日野富子の生涯を訪ねて)

併設 二階講堂

独園禅師遺墨展『萩野独園』図録刊行

10月1日～6日 長安三人展

10月24日～12月4日 東洋の袈裟展

平成7年1月14日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入 世界文化遺産登録記念

1月13日～3月31日 徳川家と江戸文化展 前期

NHK大河ドラマ「徳川吉宗」協賛

7年度 4月1日～12月3日 徳川家と江戸文化展 後期

NHK大河ドラマ「徳川吉宗」協賛

「相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催

9月15日～10月29日 開催場所 東京根津美術館

平成8年1月6日～3月31日 秀吉と桃山文化展 前期

NHK大河ドラマ「秀吉」協賛

併設 二階講堂 1月13日～2月11日 江雲佛画の世界

8年度 4月6日～5月26日 宗徧流山田宗蓉宗匠コレクション 茶箱茶籠展

5月29日～平成9年2月19日 秀吉と桃山文化展 後期

併設 二階講堂 11月2日～12月8日 雲道人展

平成9年3月2日～3月31日 仏腹藏物莊巖裂地の美展 高麗王朝染織の美

9年度 4月5日～12月7日 伝来の名宝展 春屋妙葩六百年遠諱記念

9月13日～28日 観世宗家能装束展 法堂修復落慶記念

10月18日～11月3日 ライトアップ 金閣寺と銀閣寺の名宝

夢中庵庭園ライトアップ(京都交通局と京阪バスの定期観光バス)

平成10年1月6日～3月18日 金閣寺・銀閣寺茶の湯名宝展 前期

鹿苑寺創建六百年記念

1月15日～3月18日 京の冬の旅わびコース参入

3月21日～4月12日 蘇るクメールと周辺の仏教展

10年度 4月14日～8月31日 金閣寺・銀閣寺茶の湯名宝展 後期

併設 二階講堂 4月29日～5月30日 中国書画篆刻 郷濤展

「相国寺金閣寺銀閣寺名宝展」開催

4月23日～5月6日 開催場所 蒲江町中央公民館

9月20日～平成11年3月31日 東洋の陶磁展 前期

「大本山相国寺・金閣・銀閣寺宝展」開催

7月25日～8月30日 開催場所 北海道立近代美術館

9月9日～10月11日 開催場所 福岡市博物館

10月24日～11月29日 開催場所 名古屋市博物館

11年度 平成11年1月15日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入

4月1日～8月22日 東洋の陶磁展 後期

9月1日～平成12年2月20日 伝来の佛教美術展 前期 佛・菩薩・阿羅漢の世界

平成12年3月4日～3月26日 韓国茗園文化財団・温陽民族博物館佛教美術展

12年度 4月1日～8月20日 伝来の仏教美術展 後期 佛・菩薩・阿羅漢の世界

9月1日～平成13年3月25日 禅と茶の湯展

13年度 4月1日～8月26日 鎌倉禅の展開(鎌倉武士と大陸との交流)

9月1日～平成14年3月21日 大典と若冲展(二階講堂に鹿苑寺旧障壁画襖絵35面展示)

第一回京都・今出川特別寺宝展参入

14年度 4月13日～平成15年3月31日 開山夢窓疎石六百五十年遠諱記念 禅と茶の湯展 前期

1月11日～3月18日 京の冬の旅みやびコース参入

禅宗本山の美をたずねて(講堂にて定期バス食事阿じろ)

第二回 京都・今出川特別寺宝展参入

開山夢窓疎石六百五十年遠諱記念・新潟放送創立50周年記念

「大本山相国寺・金閣・銀閣秘宝展」開催

4月10日～5月19日 開催場所 新潟市美術館

6月8日～7月14日 開催場所 静岡県立美術館

7月20日～8月22日 開催場所 岐阜歴史博物館

9月10日～9月29日 開催場所 青森県郷土館

2月16日～12月14日 特別拝観ツアー 夢中庵にて全員に抹茶接待と説明会



平成13年4月～8月 「鎌倉禅の展開」ポスター

有馬頼底席主 濃茶席茶会

5月18日～20日 岐阜市歴史博物館記念茶会 岐阜市すぎ山旅館  
全国小京都会議開催記念「金閣寺名宝展」開催

7月10日～29日 開催場所 天領日田資料館

15年度

4月1日～平成15年5月25日 禅と茶の湯展 後期

6月1日～平成16年3月31日 五山文化と林下の世界 前期

有馬頼底席主 濃茶席茶会

4月12日 富美茶会 富山美術倶楽部

4月17・18日 明治村茶会 明治村坐魚荘

第三回京都・今出川特別寺宝展参入

全国小京都会議開催記念「銀閣寺名宝展」開催

10月15日～11月3日 開催場所 天領日田資料館

16年度

4月1日～6月19日 五山文化と林下の世界 後期

併設 足利義満六百年遠忌記念 展示室・二階講堂展示

4月29日～5月9日 義満と世阿弥の世界

7月1日～平成17年3月31日 館蔵の陶磁器展 前期

全国小京都会議開催記念「相国寺名宝展」開催

11月5日～11月24日 開催場所 天領日田資料館

第四回京都・今出川特別寺宝展参入

開基足利義満六百年遠忌記念

「大本山相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催 主催 読売新聞社本社

17年度

12月25日～平成17年1月17日 開催場所 東京日本橋高島屋

3月2日～3月21日 開催場所 大阪難波高島屋

4月6日～4月12日 開催場所 松山伊予鉄高島屋

17年度

4月1日～6月19日 館蔵の陶磁器展 後期

以降 承天閣増改築工事により18年春まで休館

有馬頼底席主 濃茶席茶会

5月15日 越後三楽茶会 新潟北方文化博物館

6月25・26日 鈍翁茶会 山形清風荘

9月11・12日 古溪会茶会 博多聚美苑

11月5日 東茶会 東京美術倶楽部

18年度

7月15日～平成19年3月31日 伝来の茶道具展 第一展示室のみ

「相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催

9月16日～10月25日 開催場所 山口県萩市博物館

(室町文化の精華―大本山相国寺と金閣・銀閣の名宝展)

有馬頼底席主 濃茶席茶会

6月2日・3日 光琳乾山茶会 広沢池畔 MOA美術館

19年度

5月 承天閣美術館増改築工事完成記念

5月13日～6月3日 開基足利義満六百年遠忌記念「若冲展」

釈迦三尊像と動植綵絵百二十年ぶりの再会

主催 相国寺・日本経済新聞社・協力 宮内庁三の丸尚蔵館

9月15日～12月9日 相国寺の禅林文化展―室町から近世へ―前期



「若冲展」会場風景

12月15日～平成20年3月31日 相国寺の禅林文化展 後期  
「京都五山禅の文化展」開催

7月31日～9月9日

開催場所 東京国立博物館

平成20年1月1日～2月24日

開催場所 九州国立博物館

有馬頼底席主 濃茶席茶会

11月18日 松川茶会 富山美術倶楽部

12月16日 宗徧流流祖三百年回忌・宗蓉宗匠十三回忌追善茶会 東京美術倶楽部

20年度

4月1日～4月13日 相国寺の禅林文化展 前年度の展観延長

4月27日～7月21日 山口伊太郎遺作展 西陣織による源氏物語絵巻

7月27日～11月30日 狩野派と近世絵画展 前期

12月6日～平成21年3月29日 狩野派と近世絵画展 後期

日仏交流150周年「京都パリ友情盟約締結50周年記念展」開催

10月15日～12月14日 開催場所 パリ市立プチパレ美術館

有馬頼底席主 濃茶席茶会

11月29日 音羽茶会 東京護国寺

21年度

4月11日～9月6日 相国寺・金閣・銀閣名宝展―パリからの帰国展―

9月13日～12月6日 山口安次郎能装束展―心と技の饗宴―

12月12日～平成22年3月26日 金閣・銀閣名宝展

1月10日～3月22日 京の冬の旅参入 単独拝観

4月3日～6月6日 江戸の粹・明治の技 柴田是真の漆×絵

7月3日～平成23年5月10日 書画と工芸

22年度

9月18日～12月12日

特別展示 重要文化財 七難七福図巻 円山応挙

平成23年3月19日～5月10日

特別展示 若冲水墨画の世界 鹿苑寺大書院旧障壁画全面修理完成記念

併設 二階講堂 11月12日～11月23日 日中友好仏教絵画展 弘雲佛画の心

23年度

5月21日～9月11日 ハンブルグ浮世絵コレクション展 日独交流150周年記念

二階講堂にて納涼寄席

7月24日 「米團治の地獄八景」 演者 米團治

7月30日 「百物語 怪談囃」 演者 露の団四郎

8月7日 「落語と錦影絵」 演者 桂南光

10月1日～12月4日 能面と能装束展 茶道資料館と協賛

12月8日～平成24年3月20日 館蔵の屏風絵展

「葦の細道図屏風」俵屋宗達 修理完成記念

「相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催

10月28日～11月23日 開催場所 福岡県久留米市有馬記念館

ワシントン「桜祭り」 伊藤若冲筆 釈迦三尊像出品 開催

3月28日～4月29日 開催場所 ワシントンアートギャラリー

有馬頼底席主 濃茶席茶会

5月15日 越後三楽茶会 新潟北方文化博物館

9月24日 東茶会 東京美術倶楽部

11月11日～13日 光悦茶会 鷹峰光悦寺

24年度

4月7日～6月17日 七類堂天谿道釈画展

6月23日～9月9日 ワシントン桜祭り若冲三尊像出品記念

伊藤若冲展 若冲筆 三尊と同コロタイプ作品同時展示

「若冲・応挙の至宝―京都相国寺と金閣・銀閣名宝展―」開催

9月29日～11月25日 開催場所 新潟市会津八一記念館、新潟市立歴史博物館

10月6日～12月2日 最後の文人 會津八一の世界展

新潟市會津八一記念館作品と相国寺関係作品交換展

「日本の心―相国寺・金閣・銀閣名宝展―」開催

10月12日～11月25日 開催場所 富山県立水墨美術館

12月12日～平成25年3月17日 墨蹟の至宝展

「金閣・銀閣の寺宝展―雪舟・等伯・宗達・そして若冲―」開催

平成25年1月12日～3月10日 開催場所 福岡県久留米石橋美術館、有馬記念館

有馬頼底席主 濃茶席茶会

10月16日 椿山荘茶会 東京椿山荘

11月3日 華蔵寺茶会 出雲華蔵寺

平成25年2月10日 水天宮茶会 東京ロイヤルパークホテル

3月3日 陽明文庫茶会 宇多野陽明文庫

25年度

4月3日～5月26日 観世宗家展

4月5日～6日 大師会茶会 東京根津美術館

6月8日～9月29日 伊藤若冲と近世絵画展

10月11日～平成26年3月23日 承天閣美術館開館30周年記念

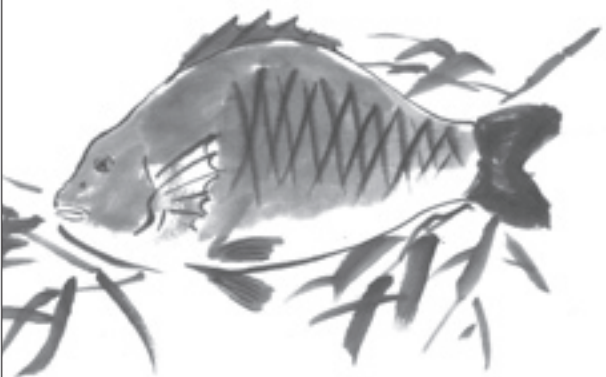
円山応挙展 前期 七難七福図を中心に展示

後期 障壁画を中心に展示

『承天閣美術館開館30周年記念 円山応挙展』図録刊行

有馬頼底席主 濃茶席茶会

12月14日 石州流大口派茶会 東京護国寺



平成二十五年度(雪安居)  
相国僧堂 在錫者名簿

京都 (南禅) 光雲寺徒	京都 (相国) 瑞春院徒	須賀集信
福島 (妙心) 忠教寺徒	京都 (相国) 慈雲院徒	中山真周
和歌山 (妙心) 観福寺徒		
足助厚堂		

# 心に生きる

## 笑顔とほゝえみ

演劇塾 長岡学舎

粟津もと

72

いまから六年ばかり前のことです。

私は素晴らしい笑顔に出会いました。

それは四月初めの夕暮れ刻でした。家へ帰るべく、地下鉄鞍馬口駅の改札口を通り抜けようとした時です。

「ありがとうございます。おつかれさまでございました」

明るい、やわらかい響きの言葉が耳に飛び来んで来たのです。思わず顔をあげて声の主を見ると、若い男性の駅員さんがにこにこ人なつつこい笑顔で、改札口に立っておられるのです。それは一瞬にして他人の心をときほぐして、和やかにしてしまふような晴れやかな笑顔でした。私はあわてて

「あつ、ありがとうございます。御苦労さまでございます」といって、その笑顔に応えるように笑いかけました。思わず笑顔が出てしまふような素敵な笑顔だったのです。

——なんと気持ちのいい笑顔なんだろう——電車にゆられている私の心に、なんともいえないあたたかいものが流れていました。

その明るる日から殆んど毎日、改札口で嬉しくなるような笑顔に出会うことが出来ました。

73

一と月、二た月と月日は移り過ぎてゆきました。若い駅員さんはいつも一人一人の乗降客を大切に迎え、送って下さいました。その態度は最初に出会った時と一日も変わりませんでした。むしろ更によくなっていると思いました。朝は「おはようございます。ありがとうございます。御苦労さまです」と挨拶をされ、小学生や中学生、高校生達には「いつてらっしゃい。がんばってね」といつて下さるのです。夕方の帰宅時間になると、「ありがとうございます。おつかれさまでございました」と言葉を使い分けられ、生徒達には「お帰りのこと、おつかれさま」といつて下さっていました。料金のことや乗り換えの駅のこと、道路へ上ってからの行き先の事までも聞かれると、笑顔でやさしく懇切丁寧に説明をされていました。この方の笑顔と心のこもった言葉が、どれだけ乗降客の心を癒やし、励まし、元気にさせ、働く意欲を起こさせたでしょうか。少くとも私は会うたびに幸せをいただいで居りました。

「初心忘るべからず」という言葉がありますが、この駅員さんはこの心をしつかりと持つておいでだと思いました。このお仕事につかれる時から、上司や先輩に教えられた事は必ず実行しようと心に誓われ、最後まで続けていこうとされているのだと思いました。

人間は得てして教えられた事でも、同じ事をくり返していると、「わかってる事だから」と安易な気持ちになって、手ぬきをしたり、いい加減に扱ってしまいがちになる事が多いのですが、この駅員さんは本当に立派な方でした。それから数ヶ月、駅員さんはいつも変わらぬ様子で改札口に立つて下さってましたが、遂に姿が見えなくなってしまうました。きっとお仕事の場所が変わられたのでしょう。気持ちのいい笑顔に出会えなくなりましたが、私の心の中には今も鮮やかに生きています。職場が変わっても、あの笑顔は変わらず、今も尚他人の心を幸せにしてあげてられるだろうと思って、一人で頬をゆるめて居ります。

これも亦私の心に生きる「ほほえみ」のお話です。

烏丸通りを京都市営バスが走っていた頃でした。私は始発駅の三条京阪から、塾へむかって、市バスに乗り込みました。お午ひるまえの乗客の少ない時間帯でした。私は前の入口から一番近い席に座って発車を待ちました。やがてドアが閉まり

「おまたせ致しました。発車致します」

私はびっくりしました。マイクを通して女性の声が流れて来たのです。よく透る美しい声でした。思わず立ち上がって運転席をのぞき込みますと、女性が運転士さんの制服を着てハンドルを握ってられるのです。

バスが三条大橋にかかる

「次は河原町三条でございます。お降りのお方は御準備をおねがい致します」

とアナウンスが入りました。——なんていきとどいた運転士さんだろう——と感心しているうちに停留所に着きました。

「河原町三条でございます。お降りのお方はお忘れ物ございませんように。お足もとにお気をつけられてお降り下さいますように」

そういつてからドアを開けられました。そして降りられるお客さん一人一人に

「ありがとうございます」

と丁寧な頭を下げられ、お年寄りの方には

「ありがとうございます。おおきに」

と京ことばでお礼をいわれたのです。そして一人一人をあたたかい眼差しで、

やさしく微笑みかけてられたのです。

私は各停留所で止まる度に、微笑ましい様子を見ていて、次第に感動が大きくなっていくのをおぼえました。



いよいよ私の降りる停留所に着きました。

私は

「ありがとうございます。素敵な方に乗せていただきてこんな嬉しいことありません。今日はほんとうに幸せな日になりました。どうぞがんばって下さいね」



そういつて降りようとすると

「ありがとうございます。どうぞお気をつけられて……」

と、清々しい微笑みをたたえられて、深々と頭をさげて下さいました。

その日一日、私はあたたかい慈しみのこめられた微笑みを心に抱いて、とても幸せでした。そして誰にでもやさしくしてあげたいという心もちになっ  
ていました。

その夜、私は京都市交通局長様に一部始終を手紙に書いて、「観光都市京都  
になくってはならない、京都の誇り得る素晴らしい方だ」と称えました。折り返  
し局長様のお名前で御丁寧な御返事がまいりました。文面にはその女性運転  
士さんは、少し前まで観光バスのガイドをされていたのです。「大へん挑戦意  
欲のある人で、大型バスの免許を取って、市バスを運転したいという強い希  
望があり、交通量の少ない時間帯に運転を許可している」と書かれていました。  
御本人は私からの手紙を読まれて、「これからも心してがんばります」とおっ  
しゃってたそうです。あのいきとどいた濃しほやかな心くばりと丁寧な言葉づか  
い、そして美しい微笑みから、私は「成る程」と納得し、「流石さすが」と感心しました。  
それは職業柄身につけられたものなのかもしれませんが、それを見事に生か

して、他人を幸せな気持ちにさせられるのはほんとうに素晴らしい事だと思  
いました。

こんにちまでお二人に出会うことはありませんが、私の心の中には、あの  
「笑顔」と「ほほえみ」がしっかりと生きて居ります。お二人のことを思い出し  
て、改めて「笑顔」がこんなにも人の心を明るく、うれしく、たのしく幸せにし  
るものなのだと思います。

今年一年——私は笑顔を大切にしていこうと思って居ります。

#### 春のおさだ塾の自主公演のお知らせ

### 『春の小さな劇場(創作劇)』

「誰もが無条件でたのしく、清潔な感動を通して、その  
余韻の中から静かに考えることをさせてくれる演劇」  
——これがおさだ塾の演劇です。どうぞお越し下さい。

平成二十六年四月十八日(金) 午後七時

四月十九日(土) 午後二時、午後六時半

四月二十日(日) 午後二時、午後六時

於・般若林(相国寺北門前町)

○日中禅僧交換交流参加者来山

六月二十八日、「第十回 日中禅僧交換交流」で来日した中国の僧侶五名が本山を表敬訪問した。この交換交流の日本側窓口は、有馬管長が会長を務めている「日中臨黄友好交流協会」で、両国間で交互に禅僧を迎え入れてきた。今回来山した若手僧侶の中には、相国寺が友好締結を行っている中国開封市の大相国寺の僧もあり、各地の専門道場で修行僧(雲水)とともに数日間の修行生活を共にした後の訪問であった。

○六十回 晓天講座

八月二日、三日の二日間、承天閣美術館二階大講堂ならびに大書院において、節目の第六十回晓天講座が室町市政協力委員会との共催により開催された。今回も方丈工事中のため、坐禅と講演の会場は承天閣美術館二階大



中国禅僧の表敬訪問をうける山木宗務総長

講堂となった。午前五時半より六時まで坐禅、その後一時間の法話。大書院にて粥が振る舞われ、七時二十分に解散となった。本年の講師は、二日が有馬管長で演題は「世阿弥と義満」、三日は女優でライフコーディネーターの浜美

枝氏をお迎えし、「心豊かな暮らし〜今、私たちにできること〜」の演題でご講演をいただいた。両日合わせて二百五十人を超える参加者があり、盛況であった。



有馬管長法話



浜 美枝氏講演



「文化財鑑賞と朝がゆ体験」矢野教学部長法話

○『文化財鑑賞と朝がゆ体験』開催

八月二十四日、京都文化財団主催の『文化財鑑賞と朝がゆ体験』が本山において開催され、事前申し込みの四十名が参加した。当日は朝七時四十五分から矢野教学部長による法話、江上・荒木両教学部員による坐禅指導と拝観案内、食堂での粥座という内容で、参加者は禅寺修行の一端を味わった。

○人権問題研修会

八月二十九日、キャンパスプラザ京都（京都市下京区）にて平成二十五年度の宗教学法人関係者人権問題研修会（南部）が京都府と京都府宗教学連盟の共催で開催され、同連盟委員長でもある荒木元悦庶務部長が出席した。

○臨黄合議所理事会開催

九月五日、臨黄合議所理事会が大徳寺において開催され、山木宗務総長が出席した。

○人権問題研修会

九月十一日、みやづ歴史の館（京都府宮津市）にて平成二十五年度の宗教学法人関係者人権問題研修会（北部）が開催され、荒木元悦庶務部長が出席した。

○二十五年 秋期特別拝観

九月二十五日より平成二十五年度の秋期特別拝観を行い、法堂、開山堂、宣明（浴室）が一般に公開された。昨年度同様、拝観最終日は十二月十五日までとした。

二十六年 春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、宣明（浴室）と修復された方丈の予定である。

○第十一回 管長御親教

九月二十六、二十七日と二十九日の三日間、平成二十五年度有馬管長御親教が行われた。昨年に引き続き京都市内第二教区の巡教となったが、二十六日は、京都市上京区の長遠寺

（藤井宗常住職）、大徳寺（久山弘祐住職）、左京区の竹林寺（牛江宗道住職）の三ヶ寺を訪問した。続いて二十七日は、左京区のは心寺（和田賢明住職）、長栄寺（鈴木景雲住職）、無礙光院（阪口慈航住職）の三ヶ寺を訪れた。さらに二十九日は、左京区の桂徳院（小出量堂住職）、智藏院（小出量堂兼務住職）の二ヶ寺を訪問。三日とも初秋を感じる好天に恵まれ、二年にわたって行われた第二教区御親教がすべて終了した。本山よりは山木宗務総長、矢野教学部長、江上教学部員、荒木教学部員が同行した。（詳細は巻頭・巻末カラーなどを参照）

○大方丈修復落慶法要ならびに

承天閣美術館開館三十周年記念『円山応挙展』開会式  
十月九日午前十時より、本山大方丈に於いて『釈迦三尊開眼・大方丈修復落慶法要』が厳修された。平成二十二年九月一日に起工式を行ってから三年の工期を経て、外観、室内共に半世紀ぶりにその美しい姿がよみがえると共

に、文化財保護の観点からの耐震補強と最新の諸設備を整え、また拝観時の売店スペースも拡充された。

当日は、平成十八年より長期にわたって順に複製された伊藤若冲筆「釈迦三尊像」三幅と「動植綵絵」三十幅が方丈室内正面から周囲にかけて掛けられたが、これは明治二十二年に宮内庁へ「動植綵絵」が献上されて以来、実に百二十五年ぶりの方丈における「観音懺法」厳修時の姿の復元となった。

この開眼法要では、有馬頼底管長を導師に、相国寺一山、宗会議員、近末寺院らが出頭し、毎年六月十七日に厳修される「観音懺法」の時の独特な読み方で大悲呪一卷が諷経された。

相国寺総代、来賓、本山御用達組合相楽社など招待客を含め二百名が列席した。

管長祝語は左の如し。

祝語

宝利毫端忽大成 宝利毫端、忽ち大成す  
居然金碧放光清 居然として金碧光を放つて清し  
奉安三佛動植綵 奉安す三佛と、動植綵  
聲色堆中鎮度生 聲色堆中、鎮に度生せん

大龍叟

引き続き、承天閣美術館にて開館三十周年記念特別展の『円山応挙展』開会式が盛大に行われた。同美術館は、相国寺開創六百年記念事業の一環として起工され、昭和五十八年六月に展示室、収蔵庫、大講堂、茶室などの施設が竣工した。以来、寺宝展や特別展などを開催し、平成十九年には第二展示室の増棟がなされるなどして今日に至っている。

美術館開会式後、落慶法要と美術館三十周年記念の斎席を京都国際ホテルに場所を移し開催された。管長挨拶後に大方丈工事関係者

へ感謝状と墨蹟授与、また本山御用達組合の相楽社より維那数珠の贈呈を受け、方丈修復工事報告や応挙展主催者挨拶などがあり終了した。(巻頭カラーページ、特集記事参照)

### ○園松寺晋山式

十月十四日、第四教区園松寺に於いて本田真人新住職の晋山式が厳修され、本山より有馬管長、矢野教学部長、第一教区より慈雲院草場周啓住職、光源院荒木泰量副住職、第二教区より桂徳院小出量堂住職が拝請を受け出頭した。

(98ページ、巻末カラー参照)

### ○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区より百十七名(寺院九名)、第五教区より四十名(寺院一名)の団参があり、方丈は落慶後初の行事での使用となった。

二十一日は、九時より法堂において小林老

大師導師のもと猷粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、臨濟宗各本山、他宗派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

看這一條間木櫛 看よ、這の一條の間木櫛  
上通霄漢下黄泉 上は霄漢に通じ、下は黄泉  
拈来纔向金爐上 拈じ来たつて、纔に金爐上に向えは  
薰殺遼天鼻孔穿 遼天の鼻孔、薰殺し穿たん

頼底九拜

定中昭鑑

### ○第三十三回 寺院婦人研修会

十月二十九、三十日の両日、第三十三回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。二十九日午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、山木宗務総長の開会挨拶と有馬管長



四天王寺で説明を受ける一行



管長御垂訓を拝聴する研修生

◇参加者名簿(教区・台番順)

- 第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)  
 山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)  
 荒木寛子(光源院)  
 草場容子(慈雲院)  
 佐分厚子(豊光寺)  
 平塚久恵(養源院)

による訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて教学部員指導のもと坐禅を行った。

今回の講義は相国寺門前の今出川通にある「冷泉家時雨亭文庫」に伺い、冷泉貴実子氏より「冷泉家の歴史と文化」という演題で講義たまわり、引き続き冷泉家住宅を見学させて頂いた。

翌三十日は朝の修了式後、秋晴れのもと大阪市天王寺区の四天王寺を特別拝観し、同都島区の藤田観光「太閤園」に移動し昼食をいただいた後、隣接する藤田美術館にて「秋季特別展」を見学した。

今回は全教区より次の二十二名が参加した。



トブゲイ首相と会談

第二教区 鈴木典子(長栄寺)  
第三教区 大谷圭子(福圓寺)

第四教区 加藤祐生(南陽寺)

田中智津子(円福寺)

石崎典子(海岸寺)

五十嵐多賀子(善應寺)

第五教区 福場由紀子(萬福寺)

第六教区 矢野志保(南洲寺)

芝原由紀子・芝原聖子(感應寺)

近藤洋子(良福寺)

松本みずす・松本三津子(光明寺)

松下知子(永徳寺)

○ブータン国王を表敬訪問

十一月五日より十一日まで、有馬管長他六十名がブータン国王を表敬訪問した。これは、三年前同国のワンチュック国王夫妻が鹿苑寺を訪問され、管長との会談の中で「機会があれば是非ブータンにお越し下さい」とのお誘いを受け、昨年二月招聘状が届き実現した

ものである。管長は前国王の時にも訪問されており、今回で二回目となった。

本派からは第一教区光源院荒木元悦住職、林光院澤宗泰住職、第二教区桂徳院小出量堂住職、第三教区天正寺佐々木契堂住職が、また京都仏教会からも長澤事務局長や清水寺、大覚寺、善峰寺他関係僧侶が参加した。

現地では管長以下全員が、ワンチュック国王に謁見を許されるという異例の歓待を受け、同国のトブゲイ首相や王宮内寺院のサントン・ドルジェイ大僧正にも会う機会を得た。また王宮内寺院では本尊釋迦如来、歴代国王への諷経がなされ、管長自ら回向をされた。日本側から管長の墨蹟に加え、京都仏教会より世界遺産登録を間近に控えながら全焼したウオンデイ・フォタン・ゾン(寺院機能を備えた城郭)への見舞金、清水寺より東日本震災被災地陸前高田市の流木松で彫られた聖観音菩薩、日本画家森田りえ子氏から桜の絵、広島被爆アオギリの種、東日本震災被災高校生、京都の高

校生からの手紙が合わせて贈られた。

\*なお、本表敬訪問の様相を収録した番組が、左記の通り、関西地区にて放映されます。

1月5日(日) 朝6時15分から6時45分 毎日放送  
MBS新春特番「ブータン紀行」幸せの原点を探して(仮題)

○「全国足利氏ゆかりの会」追善法要

十一月六日、方丈に於いて「全国足利氏ゆかりの会」追善法要が厳修された。山本宗務総長を導師に本山内局員が列席のうえ諷経した後、一行は浄土宗の十念寺(上京区寺町通)へ移動し墓地内にある足利第六代將軍の義教公の墓に参じた。

当日は足利義弘同会特別顧問をはじめ、全国の足利氏にゆかりのある府県より栃木県足利市長、京都府綾部市副市長、徳島県阿南市長、栃木県さくら市長や京都市観光協会会長、足利初代將軍の尊氏公墓所で足利家歴代の菩提寺である天龍寺派等持院(京都市北区)などの関係寺院僧侶のほか約七十名が同席した。

○感應寺晋山式

十一月十七日、第六教区感應寺に於いて芝原祥三新住職の晋山式が厳修され、本山より山木宗務総長、矢野教学部長が拝請を受け出頭した。  
(100ページ、巻末カラー参照)

○相国寺、鹿苑寺前総代 藤井幸二氏死去

十一月十八日、相国寺ならびに鹿苑寺前総代で株式会社フジックス相談役の藤井幸二氏が八十六歳で亡くなられた。同氏には長年にわたり鹿苑寺総代を務めていただき、また相国寺総代としても多大なる尽力を賜った。通夜は鹿苑寺澤宗泰執事長が、告別式は有馬管長が導師を勤められた。

○東京別院方丈・客殿・書院上棟式

十一月十九日、東京都港区南青山の東京別院において方丈・客殿の上棟式が行われた。本山より有馬管長、小林老大師、山木宗務総長をはじめ内局ならびに本山一山、別院監護の中村氏

のほか、建築研究協会、水澤工務店社長以下工事関係者、各業者の計六十二名が列席した。式は晴天のもと、管長による祝語より始まり、諷経、大工棟梁らによる工匠式(四方固めと槌打ちの儀)、管長挨拶の順に行われた。尚、落慶は平成二十七年九月頃を予定している。

管長東京別院上棟祝語は左の如し。

祝語

白雲峰下正鮮新 白雲峰下、正に鮮新  
金殿崔嵬大願輪 金殿崔嵬、大願輪  
石鼓一聲天地震 石鼓一聲、天地震う  
靈源澎湃度群倫 靈源澎湃として、群倫を度せん  
大龍叟



上棟式に列席する本山一山僧侶、工事関係者



工匠式「槌打ちの儀」

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催  
 (※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきた。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催されていたが、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っている。

維摩会の名称は、『維摩経』の主人公で、古代インドにおいて釋迦の弟子となった維摩居士に由来する。

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前九時より十一時迄

内容…坐禅(九時～十時半)

読経・法話(十時半～十一時)

注意事項…

当日は九時までに必ずお越しください。十人以上で参加の際は、前日までに電話(電話〇七五―二三一―〇三〇―)にてご連絡をお願い致します。

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀…楽でゆったりとしたものが望ましく、肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会

平成二十六年の開催日は左記の通りです。

有馬管長坐禅会

一月二十六日(日)	二月十六日(日)	三月八日(土)	四月十九日(土)
五月二十五日(日)	六月十四日(土)	七月十二日(土)	九月十三日(土)
十月二十五日(土)	十一月八日(土)	十二月十三日(土)	

(八月は休会です)

会場…東京別院・庫裡事務棟一階

時間…午前十時半より正午頃迄

内容…『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀…服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。



## 小林老師坐禪会

- |           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 一月二十五日(土) | 二月二十二日(土)  | 三月二十九日(土) |
| 四月二十六日(土) | 五月十七日(土)   | 六月二十一日(土) |
| 七月十九日(土)  | 八月二十三日(土)  | 九月六日(土)   |
| 十月十一日(土)  | 十一月二十二日(土) | 十二月二十日(土) |

時間…午後一時より二時半迄

内容…『臨濟録』提唱、坐禪、茶礼

威儀…袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。



東京維摩会会場 庫裡事務棟外観



TEL 03-3400-5858

会場入口：前入口より50m南側

会場：庫裡事務棟 1階

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

## 教区だより

### 第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講興福寺、観音寺参拝  
 毎年六月に大峰山おおみねさんに入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で四十六回目の入峰修行を無事終えられた。

平成二十五年六月七日午前九時より、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を、役員及び今回で七回目入峰による院号授与者の他多数の参拝者を行う。

翌日八日午前六時、堀川今出川を貸切バス二台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川どうがわに向かう。十時前に宿泊所である洞川西村清五郎旅館に到着、早めの昼食後直ちに入峰に向かう。昨年、一昨年と続いて雨で大変だったが、今回は雲一つない晴天にめぐまれ新

客を先頭に山上に向かう。途中、二年続いて出来なかった最初の行場である「西の硯」も無事に終えて山上に向かう。同じく昨年と一昨年と出来なかった新客と今回の新客は「裏行場」に向かい、その他の者は本堂に向かう。新客の行を終えて帰って来るまでの一時間あまり、本堂にて待ったが無事行を終えて全員本堂に集合して勤行する。参詣後下山、西村清五郎旅館にて宿泊する。

翌九日は午前五時半起床、六時に竜泉寺において新客全員と共に般若心経をとえながら水行をする。終わって朝食を取り竜泉寺参詣後、洞川を出発、一路奈良平野の田園を見ながら法相宗大本山興福寺に向かう。参詣後昼食を取り、京都に向かう。西国第十五番観音霊場新那智山観音寺(通称今熊野観音寺)に参詣する。境内参観後、徒歩にて真言宗智山派総本

山智積院ちしやくいんに参拝する。その後東山閣にて小宴。午後八時、堀川今出川に無事全員帰着、万歳三唱をして目出度解散する。

#### ◆興福寺

興福寺は、今から千三百年前の和銅三年（七一〇）に飛鳥藤原京から現在の場所に移築された寺で、平成二十二年（二〇一〇）が創建千三百年であった。

現在、興福寺は享保二年（一七一七）の大火で失われた中金堂の再建を目指して、平成二十一年秋には地鎮鎮壇法要、平成二十二年十月十六日には立柱式を行い、平成三十年（二〇一八）中金堂の完成を目指して工事中である。



大峰山 法相宗大本山 興福寺 平成25年6月8日入峰 連山組 72名

### 第二教区

#### ○相国会支部総会

六月二十三日、午前十一時より本山山内慈照院様にて、第二教区相国会支部総会が二十七名の役員が出席して開催された。本堂で読経の後、書院にて総会に入った。例年の如く事業報告・会計報告等が行われた。

管長猥下の御親教に関して、詳しい内容の説明があった。本年度御親教に携わる役員の方々は非常に身の引き締まった心境であった。総会のあと、上幸の精進料理を会食し親交を温めた。食後、慈照院御住職が寺院内を説明して下さった。

#### ○御親教

九月二十六日・二十七日・二十九日の三日間にわたって、管長猥下の御親教が第二教区八カ寺で厳修された。三日間ともに晴天に恵まれすばらしい御親教を頂いた。今回で教区内十三カ寺すべての御親教が無事円成された。

### 第四教区

#### ○海岸寺閑栖松林良岳師津送・新忌齋

七月十一日、当教区東源寺和尚を乗炬ひんこ導師に、龍興院和尚（京都府舞鶴市・南禅寺派）を奠ち茶導師に、善應寺和尚を奠湯導師に請じて、同寺第十六世良岳和尚の津送式及び新忌齋が厳修されました。

#### ○宗務支所 支所会

七月二十二日、善應寺においてお盆行事調整及び本山開山忌団参、臨濟・白隠忌遠忌賦課金通知について協議した。

#### ○寺庭婦人会 奉仕作業

九月十八日、おおい町の特別養護老人ホーム楊梅苑で、入所者の衣服の繕いなどの奉仕作業を行いました。

○宗務支所 支所会

九月三十日、善應寺において本山開山忌団参の参加者集計及び龍虎寺周山和尚退山式、園松寺晋山式について協議した。

○園松寺晋山式

十月十四日、本山より管長猊下の御臨席を賜わり、快晴の空のもとで、第二十四世本田真人和尚の晋山式が執り行われました。管長猊下の心温まる御垂訓を頂戴し、法縁深い尊宿方の祝福を受け、新命和尚、檀信徒ともども、園松寺法燈の護持発展の思いを新たに致しました。  
(巻末カラー122ページ参照)

○宗務支所 開山毎歳忌団参

十月二十一日、相国会会員、住職、総勢百十七名が相国寺開山毎歳忌に参拝した。本山法要参拝後、嵐山天龍寺にて昼食、精進料理をいただき、法堂に参拝。その後、花園妙心寺で、法堂、開山堂に参拝。天龍寺、妙心寺では和

尚様に丁寧な御案内を頂戴しました。有り難う御座いました。

○本派寺院婦人研修会参加

十月二十九日(三十日、本派主催の第三十三回寺院婦人研修会に当教区より寺院四名が参加しました。  
(詳細は85ページ参照)

第五教区

○出雲相国会夏休み親子坐禅会

七月二十九日に「夏休み親子坐禅会」を西光院で開催した。子供二十九名、大人・役員を合わせて約六十名が参加。当日は雨天のためラジオ体操も本堂で行い、続いて富田寺住職、西光院住職、東光寺新命和尚の指導で坐禅。坐禅終了後、坐禅和讃を唱和して子供たちには参加証が手渡された。休憩後予定していたウォークラリーも室内に変更したが大いに楽しめた。



夏休み親子坐禅会の様子

○本山開山忌団体参拝

今年も本山開山忌に合わせ団体参拝を行った。参加者は四十名。開山忌前日の十月二十日に出雲を出発して途中、滋賀県大津市の石山寺見学・近江八幡市の水郷めぐりをして、おごと温泉で宿泊。



開山忌法要後に方丈で齋座をいただく参加者

二十一日は本山開山忌に出席し、修復が完成した方丈で齋座(昼食)を戴いた。参加者は方丈での食事に感激していた。承天閣美術館を見学後下山。京都水族館に立ち寄り帰路に着いた。

## 第六教区

○感應寺第三十八世 芝原祥三住職晋山式

十一月十七日、午前十時より感應寺(鹿兒島県出水市)にて、芝原祥三新住職の晋山式が厳修されました。当日は雪丸令敏妙心僧堂老大師、細川景一花園大学学長、本山からも山本宗務総長、矢野教学部長、また縁故寺院、新命同参寺院、教区寺院に御随喜給わり、また島津家御当主島津修久様はじめ、檀信徒他四百名を超える多くの出席者が和やかに見守る中、の式となりました。尚、前日十六日に芝原一三前住職の退山式も厳修されました。

新命住職は、昭和四十九年生まれ、早稲田大

学大学院修了後、妙心寺専門道場で修行し、副住職を経て感應寺の法徳を承ぐこととなりました。また法務の傍ら臨床心理士として地域福祉の貢献にも寄与されています。第六教区のためにも、今後益々活躍されることを期待しております。(巻末カラー123ページ参照)



## 教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分 宗順

### ◆研修会

○現代問題研修会は現在講師は未定で、決定次第ご案内致します。また前回の櫻井圀郎氏の法律知識をより具体的にするため、規則の作成や役所に対する申請の手続き等を行うための実践的能力の養成、又、会計処理や人事管理、寺院運営のための実践的な能力の養成を目指し、講座を組む予定です。

○「相国寺研究」は、相国寺史編纂室研究員の藤田和敏氏による「宗門と宗教法人を考える―明治以降の臨濟宗と相国寺派」を左記の日程で開催いたしました。

日本仏教は国家仏教として発展しましたが、明治以降、権力者の経済的支援や、荘園などの経済基盤を失い、仏教寺院存続のために軌道修正を迫られました。この変革にどのような理念でこれからの寺院運営に対処したのか、いままでもあまりつまびらかにされていませんでした。そのパラダイムの転換ともいえる変革の一端を、この講座で検証して頂きました。

仏教受容の歴史は千年、相国寺の歴史も六百年を超えます。それは日本の近代国家成立よりもずっと古い歴史を持ち、この京都に君臨してきたのです。

現在の僧侶の一人一人はそれほどの力を持ち合わせていませんが、この寺院の歴史の重みを背負って僧侶が発言し行動するとき、その歴史に見合った力が発揮されるのです。

かつて古都税問題で、我々僧侶が行政に対峙し、税の廃止をなしたのも、およそ百年の歴史しか持たない行政に対して、六百年の歴史を経て存在し続けた寺院の正当性と存在理由に自負を持ち得たからです。

私たちは、自らの歴史、特に明治以降現在に至るまでの相国寺の僧侶の努力の跡をたどり、歴史認識を深め、自らの立場を再確認することによって、これからの寺院運営に自信と活力をもって対処することができると考えます。

皆さんの御研鑽を期待致します。

第一回 平成二十五年十一月十四日(木)

「国家神道体制の形成と相国寺派の動向―明治前・中期―」

明治維新後の神仏分離令や上地令といった新政府の諸政策によって財政窮乏を余儀なくされた相国寺派の実態、そのような中で教線の維持に尽力した管長荻野独園の活動などについて。

第二回 平成二十五年十一月二十八日(木)

「宗派財政の窮乏と相国寺派紀綱の編纂―明治後期・大正期―」

明治三十一年(一八九八)から始まった鹿苑寺・慈照寺での拝観料制度、同三十二年に発生した国泰寺派の相国寺派からの離脱、現行宗制の基礎となった大正二年(一九一三)の「臨濟宗相国寺派紀綱」編纂などについて。

第三回 平成二十五年十二月五日(木)

「戦時体制における臨濟宗と相国寺派―昭和前期―」

昭和十四年(一九三九)制定の宗教団体法などによって、戦時体制に組み込まれた臨濟宗や相国寺派の動きについて。

第四回 平成二十五年十二月十二日(木)

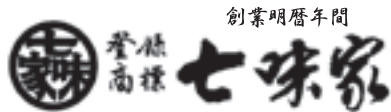
「宗教法人法の成立と古都税反対運動―戦後―」

昭和三十一年(一九五六)に京都市が実施した文化観光施設税に対して鹿苑寺・慈照寺をはじめとする京都市中の社寺が行った反対運動を中心に、宗教法人のあり方について。

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、その後質疑応答。承天閣美術館二階 講堂に於いて開催しました。

#### 【講義録】

本誌第九十九号でお伝えした相国寺史編纂室研究員の中井裕子氏による講義録『室町時代の相国寺住持と塔頭―蔭涼軒日録を中心に―』が平成二十五年九月二十五日に上梓されました。



創業明暦年間

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221  
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ  
☎ 0120-540738

9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)  
<http://www.shichimiya.co.jp/>

Future Active Alliance

office やまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで  
IT環境のトータルアドバイス

本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13  
TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494  
中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺通り田町29-62  
TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0270  
E-Mail: info@office-yamato.net

税理士 奥谷 昌雄

税理士 内藤 誠

〒602-8026

京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地  
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461



社寺の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4  
まちやまちゃ 105号  
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332



本書の内容

- 第一章 室町時代の相国寺歴代住持
- 第二章 応仁の乱後の相国寺復興に尽力した住持たち
- 第三章 塔頭の院主



これまでに行った研修会の講義録を  
ご希望の方は、手数料一千元を添え、  
下記の相国寺宗務本所内教化活動委員  
会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒602-1089

京都市上京区今出川通鳥丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五-二三一-〇三〇一

FAX 〇七五-二二二-三三九九

ホームページ (<http://www.shokokuji.jp>)




社寺庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理

**植昭** 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

**印刷を極め、印刷を超える——**

ヨシダ印刷グループは、生産力・機動力・開発力・発想力を結合し、お客様の最適な情報伝達のために、なくてはならない製品・サービスを提供する事で、社会の発展に貢献します。



**ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所**

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572 TEL.075-252-5421  
【本社】金沢 【支店・営業所・工場】東京・金沢・大阪・京都・富山・福井 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

**JTB**

感動のそばに、いつも。

**(株)JTB西日本 団体旅行京都支店**

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 NBF四条烏丸ビル2F  
TEL. 075(284)0173 FAX. 075(284)0175  
担当：酒井 健次（営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日休業）

大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45  
電話京都 (075) 441-0563  
FAX京都 (075) 441-0571

〒604-18356 京都市中京区大宮通錦上ル  
電話〇七五―八二―一三三八七二

植昭 長岡造園

大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

**樋口造園 (株)**

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル  
電話 (075) 462-1385  
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

**(株)後藤利法衣店**

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル  
電話 (075) 221-4587  
FAX (075) 223-0094  
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

**矢尾 治**

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358  
電話 (075) 841-2144  
FAX (075) 841-2110  
<http://kyoto-shoujinryouri-yaaji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工  
数寄屋建築

**澤甚 株式会社 澤野工務店**

本社  
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入  
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775  
山科事務所・工房  
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は  
大本山相国寺御用達

**後藤新助法衣仏具店**

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地  
電話(代表) (075) 462-3915番  
ファクシミリ (075) 462-3616番  
URL <http://www.rinzai.jp>  
E-mail: [rinzai@rmail.plala.or.jp](mailto:rinzai@rmail.plala.or.jp)

總本山御用達

**藤安田念珠店**

本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角  
電話 (075) 221-3735 (代表)  
東京・札幌・福岡 各営業所



二条城前のロケーション  
 温かいおもてなしでくつろぎのひとつときを…

お食事・ご婚礼・各種パーティーに  
 ぜひご利用下さいませ

## 京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前  
 TEL.075-222-1111(代)  
<http://www.kyoto-kokusai.com>

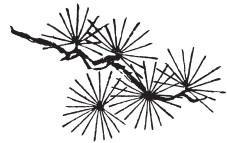


ANA  
 CROWNE PLAZA  
 KYOTO

世界の歴史都市、  
 京都の中央に位置し、  
 世界文化遺産「二条城」の前に佇む  
 ANA クラウンプラザホテル京都。

## ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
 Tel 075-231-1155  
[www.anacpkyoto.com](http://www.anacpkyoto.com)



[www.shoyeido.co.jp](http://www.shoyeido.co.jp)

# 香



大本山相国寺御用達

## 香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595  
 東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969  
 札幌支店／札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

## A DACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045  
 京都市南区東九条西明田町34-21  
 TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767  
 E-mail: [adachi-d@guitar.ocn.ne.jp](mailto:adachi-d@guitar.ocn.ne.jp)



御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

## 橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式  
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん  
浩 悦 庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地  
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022  
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…  
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 京都銀行

<http://www.kyotobank.co.jp/>

## あなたの、豊かな 人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、  
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継



三菱UFJ信託銀行 京都支店

届出第6号 (一社)不動産協会会員 (一社)不動産流通経営協会会員  
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

〒600-8006  
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

電話受付 / 平日 9:00~17:00 (土・日・祝日等を除く)

## 臨黄合議所 遠諱大法会事務局からのお知らせ

臨濟宗黄檗宗連合各派合議所では、来たる平成28年に迎える宗祖・臨濟義玄禪師1150年、ならびに翌29年に迎える日本臨濟宗中興の祖・白隠慧鶴禪師250年の両遠諱にむけ、臨黄全宗派をあげて大遠諱事業を立ち上げております。

「禅 —いまを生きる—」をスローガンに、さまざまな記念事業を行います。

### 臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱大法会 記念事業一覧

#### ◎坐禅会

【遠諱報恩坐禅会】 平成27年3月～5月

全国各地の本山や専門道場で行う一般の方を対象とした坐禅会。現役の雲水と共に1日または1泊2日で修行体験をしていただきます。

【大坐禅会】 平成28年秋

遠諱の現代的意義を広く人々に問うことを目的に、鎌倉で数千人規模の大坐禅会を行います。大坐禅会では、一般の方もご参列いただける法要も行います。

#### ◎講演会

【講演会・パネルディスカッション】 平成26年夏～28年春

大坐禅会のプレ・イベントとして、一般の方を対象に平成26年から28年にかけて数回の講演会(パネルディスカッション)を東京で開催する予定です。会場では椅子坐禅を行ない、初心者にも坐禅を体験してもらいます。

#### ◎特別展

両禪師の遠諱に臨み、禅の流れをたどるとともに、禅の生き方を探る展覧会を開催します。臨黄15派の全面的な協力のもと、厳選された名品が一堂に会します。また、会期中には禅体験の場も設営し、坐禅、法話、茶道、華道などに触れる機会を提供します。

平成28年春 京都国立博物館

平成28年秋 東京国立博物館 2会場とも、会期は6週間程度を予定

#### ◎顕彰旅行

【日中合同法要記念訪中団】

平成28年9月に河北省臨濟寺にて日中合同法要を行います。法要後、中国各地の祖庭などを巡ります。

【臨濟禪師顕彰旅行】

日中合同法要にさきがけ、各本山や専門道場などが中心になって河北省臨濟寺への拝塔を中心に祖蹟を巡る旅行を企画しています。

#### ◎シンポジウム

平成27年に京都花園大学にて、3日間程度にわたり、国内外の関係研究者を集め、臨濟録、臨濟禪師、臨濟の研究史など多方面からシンポジウムを行います。一般の方も来場できます。

#### ◎出版

【臨濟宗黄檗宗宗学概論】

禅の思想・歴史・文化、法要行事など、住職研修会や寺院婦人会などで使える宗門の教科書的な概論を発行、各派寺院に記念品として配布します。

【布教書籍等】

一般の方に臨濟禪師を理解してもらうための書籍の刊行や、臨濟研究の50年史をPDF化してホームページ上で公開します。

臨黄合議所 遠諱大法会事務局 遠諱ホームページ <http://www.rinnou.net/rinzai1150>

#### 【相国会員のみなさま 問い合わせ先】

臨黄合議所ではなく、相国寺派宗務本所 教学部までお問い合わせ下さい。

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701

TEL 075-231-0301 FAX 075-212-3591 E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp




先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 [www.dnp.co.jp/denshoubi/](http://www.dnp.co.jp/denshoubi/)

# DNP

大日本印刷株式会社 [www.dnp.co.jp](http://www.dnp.co.jp)



有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃明茶

御薄茶 常光

抹茶 全国並びに関西茶品評会第一位  
自園茶農林水産大臣賞29回受賞

大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地  
お問い合わせ(0774)20・0909  
・ジュニアール京都伊勢丹店  
地下一階銘茶コーナー  
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休営業  
京都市中京区西洞院通御池下ル  
電話(075)223・0909  
【取扱店】全国有名茶店・茶道具店  
<http://www.marukyu-koyamaen.co.jp>



Copyright © 2013-14 相国寺 All Rights Reserved  
**本名「まるやま にえもん」**  
 ニックネーム『まるにくん』と呼んで下さい。

● 編集後記 ●

◇本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。『円明』第101号をお届けいたします。昨年9月15日、16日に日本列島を通過した台風18号は、記録的な豪雨となり、近畿地方では特に京都府下で甚大な被害をもたらし、また10月中旬の台風26号では伊豆大島を中心に多数の土石流、大水災害を引き起こしました。被災された関係各位におかれましては、あらためてお見舞い申し上げます。

◇昨年9月下旬の第11回管長御親教では、第二教区を8カ寺回りました。初秋の爽やかな天候のもと、管長法話やその他予定の行事を滞りなく終えました。各御寺院ご住職はじめ檀信徒の皆様には大変お世話になり、また各総代様からは感想文を本号に寄稿いただき、誠に有難うございました。巻頭・巻末カラーと共にご覧下さい。この御親教も、本年第一教区他2カ寺を回って圓成の予定です。

◇同じく大きく取り上げたのが、10月9日に厳修された「方丈修復落慶法要並びに承天閣美術館三十周年記念行事」です。約3年の工期を経て修復された方丈では、併せて伊藤若冲作「動植綵絵」30幅複製完成披露も行われました。これを機に布教活動や文化活動に一層の拍車を掛けて参りたいと存じます。早速本年は「相国会本部『円明』100号発行 記念研修会」を、新豊の香漂う方丈で開催します。詳細は次号で案内致します。本派寺院におきまして1カ寺でも多く檀信徒の参加をお願い致します。

◇内局一般事務職におきまして約5年勤務して頂いた吉富綾子氏が退職され、後任には9月21日より武田伊代氏が着任しました。宜しくお願い致します。厳寒の候、どうぞご自愛下さいませ。

(矢野謙堂 記)

えん みよ 平成26年正月号(第101号)  
**円明** 平成26年1月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591  
 URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.jp) (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



[お詫びと訂正] (誤) 『餓鬼も乗り 汽水深き 精霊船』  
 『円明』第100号 65ページ掲載の俳句に誤りがありました。右記のように訂正してお詫び致します。 (正) 『餓鬼も乗り 吃水深き 精霊船』

相国会本部からのお知らせ

平成26年度 第24回「相国会本部『円明』100号発行 記念研修会」

開 ★ 催 ★ 予 ★ 告

● 開催趣旨 ●

主に相国寺派寺院檀信徒である相国会会員向けに発行している機関誌『円明』が、前号(平成25年8月発行)で第100号に達したのを記念して、次回の第24回「相国会本部研修会」は、「相国会本部『円明』100号発行 記念研修会」として開催することになりました。



通常隔年で開催している2日間の研修会の内容を、さらに充実させ3日間とし、参加した研修生にとっての自己鍛錬や、本山相国寺＝本派寺院＝相国会会員(檀信徒)の一層の友和を図る一助となる様な研修会を下記の如く企画しました。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

1. 開催 日：平成26年10月11日(土)・12日(日)・13日(月・祝)
2. 募集対象者：原則として全本派寺院相国会会員(1カ寺から1～2名ずつ) 特に若手の会員で、明日の相国会を担う方々の参加を大歓迎
3. 研修内容：朝課、坐禅、作務などを通して禅門の修行の一環を体験し、また相国寺専門道場の小林玄德老大師による特別提唱や講師をお招きしての講義、さらには僧侶と研修生との意見交換等を行う予定です。
4. 課外研修：記念研修会にふさわしい研修先を計画中です。
5. 参加した研修生には修了書と参加記念品を授与します。

※詳細は、次号(第102号・平成26年8月発行予定)にてお知らせ致します。

相国会本部  
 相国寺派宗務本所教学部



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

宝物  
拜見

## 風雪三顧図 円満院旧障壁画

円山応挙筆 江戸時代

『三国志』の中の「三顧の礼」が題材。中国の蜀漢(三世紀)の初代皇帝劉備玄徳(昭烈帝)は諸葛孔明を軍師に迎えようと、庵を訊ねるが諸葛は留守であった。二度目もやはり旅に出ていた。しかし劉備はあきらめず、三度目の訪問でやっと諸葛に会うことができた。そして礼を尽くして自らの思いを話す。諸葛は劉備のこの熱意に感じ入り、その臣下となり劉備に尽くす。

本図は風雪の中を行く二度目を描いたもの。先頭の人物が劉備、後ろの二人はその家臣、関羽と張飛。劉備が馬を駆り立て、後ろを振り向き二人に「急げ」と声を掛けている様である。

応挙は、確固たる信念のもと、本懐を遂げようとする劉備の思いを描くため、あえて雪中を行くこの二度目を画題にしたのであろう。この故事は、有能な人物を招き入れるためには、たとえ相手が自分よりも低い身分であっても、礼を尽くして懇請するという佳話として日本でも今日まで語り継がれている。

(円山応挙展後期・平成二十六年三月二十三日まで展示)

作品解説／承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



京都今出川 鳴き龍の寺

## 相国寺 春の特別拝観

平成26年3月24日(月)～6月4日(水)

蟠龍図

拝観時間：午前10時～午後4時

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生 800円  
65才以上・中高生 700円

※一般20名以上は100円割引いたします。  
※行事のため予告なく拝観休止または拝観場所を変更することがあります。

方丈は修復落慶後、初公開となります。  
是非御参拝下さい。



# 開館三十周年記念 円山応挙展開会式

平成二十五年十月九日於承天閣ロビー。引続き祝宴於国際ホテル。

## ◆開館三十周年記念 円山応挙展(前期)

平成二十五年十月十一日から十二月十五日まで開館三十周年記念「円山応挙展」を開催いたしました。応挙は江戸時代中期の画家で、円山四条派の規範を築いた人物です。丹波国穴太村(京都府亀岡市)に生まれ、十五才で京都の石田幽汀の門に入り狩野派の画技を修得。そして実証主義的精神のもとに「写生画」を確立。花鳥・山水・人物・動物、とあらゆる物を画題として描き続けました。門下からは長沢芦雪、呉春等名立たる画家を輩出。相国寺にも多くの作品を残しております。

前期の展覧では、大津円満院祐常門主の依頼による「重要文化財・七難七福図」三巻全てを展示。本作は三巻で全長三十六メートルに



も及び、応挙の最高傑作とされております。また長沢芦雪の「白象唐子図屏風」、四条派の祖呉春筆「竹図屏風」等を展示。期間中二万人を超える来館者で大いに賑わいました。

## ◆開館三十周年記念 円山応挙展(後期) (平成二十六年三月二十三日)

現在円山応挙展(後期)を展覧中でございます。後期は、「相国寺開山堂襖絵二十面」。本作品は今日まで世に知られておらず、美術館での展示は本邦初となります。また円満院旧障壁画「山溪樵蘇図」「風雪三顧図」。本作品も京都では初公開でございます。他、応挙に師事して学んだ後、原派を興した原在中の「相国寺方丈杉戸」等、障壁画を中心に展覧いたしております。相国会の皆様には是非御高覧いただきました。く、お待ち申し上げます。



今年で承天閣美術館は開館三十周年を迎えます。当館は昭和五十九年四月、有馬頼底現管長発願のもと、開山夢窓疎石・創建春屋妙葩・歴代祖師の報恩の為、相国寺創建六百年記念事業の一環として建設されました。大本山相国寺、鹿苑寺(金閣寺)、慈照寺(銀閣寺)他塔頭寺院に伝わる文化財を受託し、保存及び展示公開、修復、研究調査、禅文化の普及を目的

としております。以後今日まで中国宋・元、日本中・近世墨蹟展、絵画展、仏教美術展、茶道具展、また能面能装束展等数々の展覧を催し、開館以来約百万人の方々に御覧いただきました。今後もより内容のある展覧を企画していく所存でございます。相国会の皆様のお待ちしております。

# 智藏院

9月29日



矢野教学部長挨拶



記念品を受ける井上尊裕禪士



総代本田元一氏謝辞

# 桂徳院

9月29日



山木宗務総長挨拶



記念品を受ける小出量堂住職



総代西川功氏謝辞



感應寺へ向かう  
新住職一行



「晋山の偈」を唱える  
新住職



住職辞令の伝達



晋山式記念撮影

# 第六教区感應寺 第三十八世 芝原祥三新住職晋山

平成二十五年十一月十七日

(教区だより100ページ参照)



園松寺に向かう  
新住職や稚児の列



「山門の偈」を唱える新住職



晋山式法要



晋山式記念撮影

# 第四教区園松寺 第二十四世 本田真人新住職晋山

平成二十五年十月十四日

(教区だより98ページ参照)

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

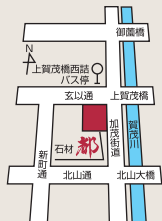


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間 / AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)  
工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440  
(洛北病院バス停前)  
夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

治心保静

(司馬温公)

心を治め、静を保つ

心を他に散らさぬ様にして  
静かさを守り保つ

撮影◎教学部(インドネシア・ジャワ島・ボロブドゥール寺院遺跡)